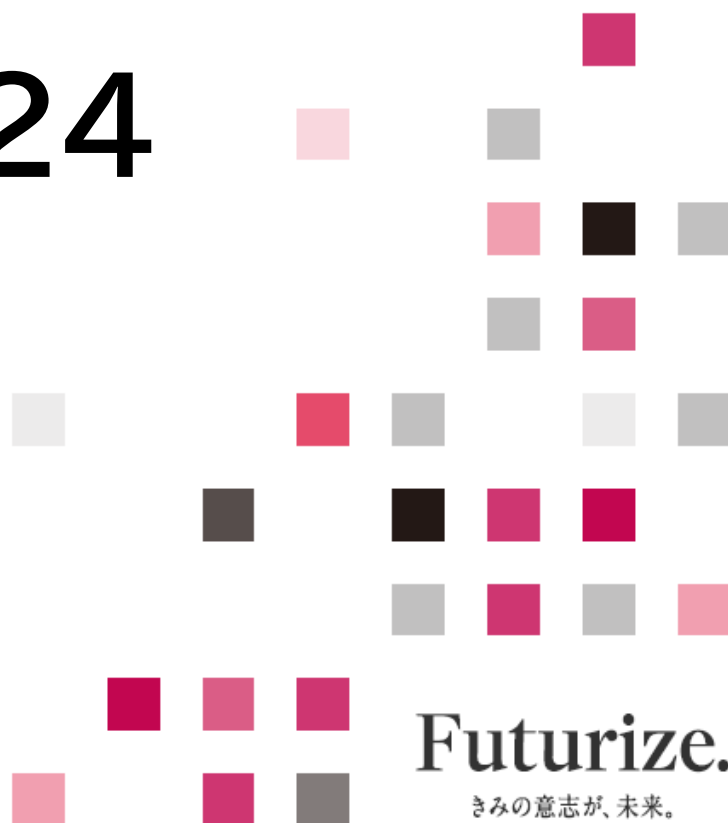




ANNUAL REPORT

2024



I. 目次

I 目次

II 室長挨拶

III 大学院キャリアパス推進室の体制

IV 本学大学院の状況

1. 2024 年度大学院入学者・在学者の状況
2. 2024 年度学位授与者数
3. 日本学術振興会特別研究員採用状況
4. 2024 年度大学院修了者の進路・就職状況

V 2024 年度事業内容・実績

◆ 経済支援プログラム

1. 奨学金および研究助成制度(修士・博士課程前期課程)
2. 奨学金および研究助成制度(博士課程後期課程)
3. 奨学金および研究助成制度(博士課程前期課程・後期課程共通)
4. RARA 学生フェローシッププログラム
5. ティーチング・アシスタント(TA)制度
6. リサーチアシスタント(RA)、教学リサーチアシスタント(RA)

◆ 大学院キャリア開発支援プログラム

7. 博士と企業のマッチングセミナー
8. 京都クオリアフォーラム

(研究発信力向上のための支援)

9. リサーチプロポーザルコンテスト
10. 100 人論文 at 立命館大学
11. ライスボールセミナー
12. 支援制度の認知度向上を目的とした大学院キャリアパス推進室 HP のリニューアル

(外国語による研究発信力向上のための支援)

13. AI 自動翻訳システムによる支援
14. アカデミックライティング連続講座
15. オンライン英語論文個別指導

◆ その他の支援

16. 男女共同参画推進リサーチライフサポート室における取組み
17. 研究倫理セミナー
18. 立命館大学若手研究者学術・キャリア情報検索システム(Ri-SEARCH)
19. 学部生に向けた取組み
20. 日本学術振興会「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」による支援

Ⅱ．大学院キャリアパス推進室長挨拶

我が国の大学院における研究と教育は現在、少子化の進行、大学院生の経済的不安、博士後期課程修了後のキャリアの不透明性といった複合的な要因により、大きな転換期を迎えております。こうした状況を踏まえ、博士人材のキャリアパスやキャリアパス形成を支援するための政策が国により推進されています。

立命館大学においても従来の経済的支援、トランスファブルスキル形成支援に加え、とりわけ博士後期課程学生と産業界との接点を拡充する取組みを強化しています。また、キャリアパスやキャリア形成に資する各種イベントの企画・運営を通じて、大学院生が将来の進路を具体的に考える機会を提供するとともに、企業に対しては博士人材の活用に向けた理解の促進を図る活動を行っています。

さらに、外部資金や外部リソースを活用した支援体制の充実にも力を注いでおります。

本学は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)による「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」および「国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成事業(BOOST)」に採択され、本学独自の取組みである「立命館先進研究アカデミー(RARA)」を基盤とするフェローシッププログラムを通じて、専門性の深化と分野横断的な協働を両立する“T型人材”の育成を推進しております。

本学は今後も、研究活動への経済的支援や、社会共創力および社会実装力の涵養を通じて、大学院生がその潜在能力を最大限に発揮できる環境の整備に努めてまいります。引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

立命館大学 副学長
大学院キャリアパス推進室 室長
野口 義文

Ⅲ. 大学院キャリアパス推進室の体制

(1) 大学院キャリアパス推進室の構成

2024 年度の大学院キャリアパス推進室は、研究担当副学長を室長として以下の体制で運営しました。また、大学院生のキャリアパス形成支援事業に関する方針の調整および決定を行うために、室長の下に大学院キャリアパス推進室会議を開催しています。

室長	野口 義文	立命館大学 副学長
運営委員	大窪 健之	理工学部教授
運営委員	瀧 博	経営学部教授
運営委員	中本 大	文学部教授
運営委員	日高 勝之	産業社会学部教授
運営委員	毛利 公一	情報理工学部教授
運営委員	森久 智江	法学部教授
運営委員	近本 智行	理工学部教授
運営委員	堤 治	生命科学部教授
運営委員	高篠 仁奈	政策科学部教授
運営委員	山本 誠一	OIC 総合研究機構(大学院キャリアパス推進室コーディネーター)
運営委員	大場 光太郎	OIC 総合研究機構(大学院キャリアパス推進室コーディネーター)
運営委員	辻井 英吾	キャリアセンター次長
事務局長	廣瀬 充重	研究部次長

沿革

2007 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・博士課程後期課程キャリアパス形成支援制度を創設 ・博士課程後期課程院生のキャリアパス形成に資する学会発表や海外での研究活動を経済的に支援する取組みからスタート
2010 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・博士キャリアパス推進室を設置 ・第2期博士課程後期課程キャリアパス形成支援制度に基づき、奨学金・研究助成制度の拡充に加え、課程博士の輩出、日本学術振興会特別研究員採用者数の増加、修了者・満期退学者の進路・就職状況の把握、大学院生向けのセミナー開催等、一定の成果と本制度の定着化を図る
2013 年度	大学院キャリアパス推進室に改組し、第3期キャリアパス形成支援制度に基づき、修士・博士前期と博士後期一体となった支援を実施することとなる。文系、理系のそれぞれの研究分野が抱える課題に応じたキャリアパス形成支援の取組みを行う。

2016 年度	第 4 期キャリアパス形成支援制度として「大学院の人材育成目的の達成およびキャリアパスの明確化に向けた支援」という基本的な考え方に基づき、多様な属性を持つ大学院生や研究者を対象にキャリアパス形成のための支援に注力。大学院高度化政策予算を活用して初任研究員や初任助教といった学位取得後のポストを創出。
2021 年度	文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」および JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択。両事業で最大 90 名規模の博士課程後期課程院生への経済支援を実現。
2022 年度	第 4 期研究高度化中期計画において、博士課程後期課程院生のキャリア支援を主としながら、研究助成制度はじめ研究環境支援について研究部として取り組むことを提起。2023 年 4 月よりキャリアパス推進室の主管を教学部から研究部に移管することを決定。
2023 年度	2023 年 4 月よりキャリアパス推進室の主管を教学部から研究部に移管。2023 年 10 月に第一三共株式会社が募集を行った「はばたく次世代」応援寄付プログラムに、私立大学として唯一採択。JST が実施する「次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING)」事業に、「RARA 学生フェローシッププログラム(RARA×SPRING)」が採択。

IV. 2024 年度_大学院の状況

1. 2024 年度大学院入学者・在学者の状況

研究科・課程別の入学者数

【図表 1-1 修士・博士課程前期課程、専門職学位課程入学者数推移】

研究科	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	入学定員
法学研究科	16	7	26	30	19	60
経済学研究科	48	47	40	44	44	50
経営学研究科	38	48	40	31	40	60
社会学研究科	42	39	33	23	46	60
文学研究科	44	43	47	51	79	105
理工学研究科	437	429	372	460	476	450
国際関係研究科	66	63	67	64	69	60
政策科学研究科	23	34	31	43	37	40
言語教育情報研究科	34	33	32	37	43	60
テクノロジー・マネジメント研究科	61	69	59	80	70	70
スポーツ健康科学研究科	27	35	23	31	34	25
映像研究科	9	10	10	11	8	10
情報理工学研究科	188	187	184	189	211	200
生命科学研究科	107	153	155	156	163	150
薬学研究科	32	31	29	32	32	20
人間科学研究科	64	57	66	61	55	65
食マネジメント研究科※	-	18	17	18	18	20
法務研究科	46	60	59	74	78	70
経営管理研究科	55	59	63	77	117	80
教職研究科	26	27	29	23	40	35
合計	1236	1303	1231	1535	1679	1505

※ 「-」について：2021 年度より食マネジメント研究科を設置

【図表 1-2 博士課程後期課程入学者数推移】

研究科	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	入学定員
法学研究科	3	3	1	1	2	10
経済学研究科	7	5	11	6	6	5
経営学研究科	3	4	7	3	7	15
社会学研究科	4	7	3	10	6	15
文学研究科	16	14	13	17	9	35
理工学研究科	26	13	25	24	25	40
国際関係研究科	9	8	10	8	8	10
政策科学研究科	5	5	9	5	9	15
テクノロジー・マネジメント研究科	10	3	8	9	11	5
スポーツ健康科学研究科	7	13	8	12	9	8
情報理工学研究科	12	23	19	15	11	15
生命科学研究科	9	10	4	13	11	15
薬学研究科※	-	5	4	4	6	3
人間科学研究科	20	24	17	22	18	20
食マネジメント研究科※	-	2	3	5	2	3
合計	131	139	142	154	140	214

※「-」について：2021 年度より薬学研究科および食マネジメント研究科を設置

【図表 1-3 博士課程入学者数推移】

研究科	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	入学定員
先端総合学術研究科(5年一貫制)	14	16	20	24	13	30
薬学研究科(4 年制)	2	2	0	4	2	3
合計	16	18	20	28	15	33

研究科・課程別の在学者数

【図表 1-4 修士・博士課程前期課程、専門職学位課程在学者数推移】

研究科	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	収容定員
法学研究科	46	23	35	58	50	120
経済学研究科	100	85	87	87	89	100
経営学研究科	72	89	88	71	72	120
社会学研究科	82	89	82	63	74	120
文学研究科	126	103	102	107	143	210
理工学研究科	808	874	824	856	938	900
国際関係研究科	148	138	16	152	155	120
政策科学研究科	47	49	64	74	87	80
言語教育情報研究科	78	67	71	76	86	120
テクノロジー・マネジメント研究科	121	139	128	129	155	140
スポーツ健康科学研究科	55	67	65	59	67	50
映像研究科	19	21	21	22	19	20

情報理工学研究科	394	381	371	387	410	400
生命科学研究科	249	267	311	316	321	300
薬学研究科	48	62	61	61	64	40
人間科学研究科	131	133	137	132	125	130
食マネジメント研究科※	-	18	35	38	39	40
法務研究科	91	113	131	149	166	210
経営管理研究科	119	117	12	140	196	160
教職研究科	56	55	59	55	64	70
合計	2790	2890	2930	3032	3320	3450

※「-」について：2021 年度より食マネジメント研究科を設置

【図表 1-5 博士課程後期課程在学者数推移】

研究科	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	収容定員
法学研究科	8	11	11	7	5	30
経済学研究科	20	17	20	24	24	15
経営学研究科	15	18	24	25	24	45
社会学研究科	59	61	50	46	40	45
文学研究科	91	87	84	86	73	105
理工学研究科	83	86	74	77	81	120
国際関係研究科	39	46	47	48	51	30
政策科学研究科	26	23	23	26	24	45
テクノロジー・マネジメント研究科	35	31	27	25	28	15
スポーツ健康科学研究科	36	44	49	47	47	24
情報理工学研究科	47	57	64	66	65	45
生命科学研究科	30	24	24	30	32	45
薬学研究科	-	5	8	12	14	9
人間科学研究科	66	84	94	99	100	60
食マネジメント研究科※	-	2	5	10	11	9
合計	555	596	304	628	619	642

※「-」について：2021 年度より薬学研究科および食マネジメント研究科を設置

【図表 1-6 博士課程在学者数推移】

研究科	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	収容定員
先端総合学術研究科(5年一貫制)	168	176	186	197	195	150
薬学研究科(4 年制)	15	12	11	10	10	12
合計	183	188	197	207	205	162

2. 2024 年度学位授与者数

修士学位・専門職学位授与者数

【図表 2-1 修士学位・専門職学位授与者数推移】

研究科	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
法学研究科	27	12	7	26	27
経済学研究科	58	39	45	39	39
経営学研究科	31	39	48	39	30
社会学研究科	31	36	41	34	22
文学研究科	60	44	41	43	50
理工学研究科	350	414	407	369	445
国際関係研究科	72	69	57	68	79
政策科学研究科	32	18	25	29	39
言語教育情報研究科	39	28	34	29	37
テクノロジー・マネジメント研究科	51	60	68	59	70
スポーツ健康科学研究科	23	23	34	21	27
映像研究科	8	9	10	11	11
情報理工学研究科	188	178	170	179	182
生命科学研究科	132	106	142	150	152
先端総合学術研究科	1	5	3	5	6
人間科学研究科	54	61	63	59	56
薬学研究科	16	30	31	28	32
食マネジメント研究科※	-	-	15	17	18
法務研究科	30	34	46	43	48
経営管理研究科	60	56	59	60	78
教職研究科	24	25	26	31	19
合計	1287	1286	1372	1332	1467

※「-」について：2021 年度より食マネジメント研究科を設置

博士学位授与者数

【図表 2-2 博士学位授与者数推移】

研究科	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
法学研究科	0(0)	2(1)	4(0)	5(1)	2(0)
経済学研究科	10(0)	4(0)	4(0)	5(0)	3(0)
経営学研究科	0(0)	1(0)	0(0)	4(0)	5(0)
社会学研究科	1(0)	7(0)	11(2)	9(0)	4(0)
文学研究科	13(0)	16(3)	11(1)	17(2)	10(0)
理工学研究科(理学)	3(0)	4(0)	3(0)	3(0)	2(0)
理工学研究科(工学)	12(1)	14(1)	13(0)	8(1)	17(2)
国際関係研究科	4(0)	4(0)	4(0)	7(0)	3(0)
政策科学研究科	5(1)	4(0)	5(0)	3(0)	2(0)
テクノロジー・マネジメント研究科	6(0)	6(0)	5(0)	4(0)	4(0)
スポーツ健康科学研究科	5(0)	0(0)	12(1)	8(0)	10(0)
情報理工学研究科(工学)	3(0)	12(0)	10(0)	13(1)	21(0)
生命科学研究科(理学)	12(1)	2(0)	3(0)	6(0)	6(0)
生命科学研究科(工学)	2(0)	2(0)	1(0)	3(0)	2(1)
先端総合学術研究科	5(0)	6(0)	3(0)	11(0)	16(0)
人間科学研究科(人間科学)	4(0)	2(0)	9(1)	12(1)	8(0)
人間科学研究科(心理学)	0(0)	3(0)	4(0)	3(0)	7(1)
薬学研究科(薬学)	5(0)	1(0)	4(0)	3(1)	2(0)
薬学研究科(薬科学)	-	-	-	4(0)	3(1)
食マネジメント研究科	-	-	-	1(0)	2(0)
合計	90(3)	90(5)	106(5)	129(7)	129(5)

※「-」について：2021 年度より薬学研究科および食マネジメント研究科を設置

※()内は論文博士学位授与者数

※遡及適用者を含まない

3. 日本学術振興会特別研究員採用状況

日本学術振興会 特別研究員申請支援

日本学術振興会 特別研究員は、採用された方の多くが常勤の研究職に就いており、若手研究家の登竜門といわれています。大学院キャリアパス推進室では、「将来研究者を目指す大学院生にとって、特別研究員に採用されることはキャリアパス形成への重要なステップである」との観点から、申請者への支援を行っています。アカデミック・キャリアを目指す大学院生のみなさんのキャリア獲得に繋がるように、「制度概要や書き方を伝えるガイダンスを設け、申請書の完成度を高めるための施策」と「将来申請する潜在層に対して研究業績や能力向上を促すための施策」の両面から取り組んでいます。

特別研究員採用に向けた支援の取組み

(1) 学振特別研究員申請書書き方ガイダンス

学振特別研究員 審査委員経験のある教員(1名)と新規採用者(1名)を招き、①申請書作成する上でのコツの発表(2名)、②①を踏まえたQAセッションを実施しました。

【図表 3-1 ガイダンス参加者数】

実施日	セミナー名	開催形態	参加人数	後日視聴者数
3月25日	学振特別研究員申請ガイダンス	オンライン	130名	29名

(2) 採用者申請書オンライン閲覧サービス

学内者(大学院生)に限り、過年度採用者の申請書をインターネット接続が可能な環境であれば、時間・場所を問わず閲覧可能なサービスを展開しました。

【図表 3-2 利用者数】

実施日	サービス名	閲覧者数	延べ閲覧回数
4月19日(金)～	採用者申請書オンライン閲覧サービス	60名	約450回

(3) 申請書基礎点検

申請書の記載要件漏れやフォーマットの崩れがないかなど、基礎的な点検を行いました。

【図表 3-2 利用者数】

実施日	サービス名	利用者
5/7(火)～5/13(月)	申請書基礎点検	62名

申請および採用結果

【図表 3-3 2025 年度採用日本学術振興会特別研究員申請・採用結果 種別】

種別	申請者数	1 次採用内定者数	最終採用内定者数	採用率
DC1	50	6	6	12.0%
DC2	96	10	10	10.4%
合計	146	16	16	10.9%

【図表 3-4 2025 年度採用日本学術振興会特別研究員申請・採用結果 研究科別】

出身研究科	DC1		DC2	
	申請数	採用内定	申請数	採用内定
法学研究科			1	1
経済学研究科	1		1	
経営学研究科			5	
社会学研究科	6		10	1
国際関係研究科			1	
政策科学研究科	1		1	
文学研究科	7	2	5	
理工学研究科	11	1	12	2
先端総合学術研究科	11	2	11	1
スポーツ健康科学研究科			12	1
情報理工学研究科	3		10	1
生命科学研究科	8		9	1
薬学研究科	1	1	6	
人間科学研究科	1		11	2
食マネジメント研究科			1	
合計	50	6	96	10

特別研究員の採用状況

【図表 3-5 日本学術振興会特別研究員申請者数・採用者数推移】

採用年度	2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度		2025 年度	
種別	申請	採用	申請	採用	申請	採用	申請	採用	申請	採用
DC1	40	7	40	7	41	7	56	3	50	6
DC2	66	6	66	6	70	7	57	5	96	10
PD	34	11	34	11	23	6	29	6	24	11
RPD	5	3	5	3	5	1	3	3	1	1
合計	145	27	145	27	139	21	145	17	171	28

【採用区分について】

DC1:博士課程(博士後期課程又はそれに相当する課程)在学中の学生を採用
(採用期間 3 年間、研究奨励金月額 20 万円、年間 150 万円以内の科研費)

DC2:博士課程(博士後期課程又はそれに相当する課程)在学中の学生を採用
(採用期間 2 年間、研究奨励金月額 20 万円、年間 150 万円以内の科研費)

PD:博士の学位を取得している者、又は我が国の人文学又は社会科学の分野の大学院博士課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得のうえ退学し、博士の学位を取得したものに相当する能力を有すると認められる者、又は博士の学位を取得する見込みがなく我が国の大学院博士課程に標準修業年限を超えて在学することになる者を採用

(採用期間 3 年間、研究奨励金月額 36.2 万円、年間 150 万円以内の科研費

※博士学位未取得者は月額 20 万円、年間 150 万円以内の科研費)

RPD:博士の学位を取得している者、又は我が国の人文学又は社会科学の分野の大学院博士課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得のうえ退学し、博士の学位を取得したものに相当する能力を有すると認められる者、且つ出産・育児のため 3 ヶ月以上研究活動を中断した者で、未就学児を養育している者、又は遡って過去 5 年以内に、出産又は疾病や障害のある子を養育した者を採用

(採用期間 2 年間、研究奨励金月額 36.2 万円、年間 150 万円以内の科研費

※博士学位未取得者は月額 20 万円、年間 150 万円以内の科研費)

4. 2024 年度大学院修了者の進路・就職状況

修士・博士課程前期課程修了者

【図表 4-1 2024 年度 大学院修士・博士課程前期課程 進路決定状況】

研究科	修了者 (A)	就職希望 (B)	就職決定 (C)	進学 (D)	その他 (E)	就職活動 継続(F)	進路把握率 (G)
法学研究科	27	22	22		5		100.0%
経済学研究科	39	30	24	2	7	6	100.0%
経営学研究科	30	24	23	3	3	1	100.0%
社会学研究科	22	16	12	2	4	4	100.0%
文学研究科	50	36	31	6	8	5	100.0%
理工学研究科	445	420	416	17	8	4	99.8%
国際関係研究科	79	46	40	12	21	6	94.9%
政策科学研究科	39	23	19	9	7	4	97.4%
言語教育情報研究科	37	27	18		10	9	94.6%
テクノロジー・マネジメント研究科	70	49	39	3	18	10	92.9%
スポーツ健康科学研究科	27	23	23	4			100.0%
映像研究科	11	9	7		2	2	100.0%
情報理工学研究科	182	152	141	12	18	11	97.3%
生命科学研究科	152	135	134	14	3	1	98.7%
薬学研究科	32	30	30	1	1		100.0%
人間科学研究科	56	43	36	8	5	7	98.2%
食マネジメント研究科	18	14	14	2	2		100.0%
経営管理研究科	78	69	66		9	3	97.4%
教職研究科	19	18	18		1		100.0%
合計	1413	1186	1113	95	132	73	98.5%

※修了者(A)・・・春学期修了者(2023 年 9 月修了者)および早期修了者を含む

※就職決定(B)・・・就職者(民間・公務員・教員)、在学中から引続きの就業者、家業、プロ契約、起業、就職見込有り

※進学(C)・・・大学院、海外の大学・大学院、他大学、各種学校

※その他(D)・・・資格試験・進学等の受験準備、就職意思なし、アルバイト、帰国、留学など

※進路把握率(F) = (就職決定(B) + 大学院進学(C) + その他(D)) ÷ 修了者(A) × 10

博士課程後期課程修了者

2024 年度博士課程後期課程(一貫制博士)修了・満期退学者の進路(2025年 4月1日時点の把握状況)

研究科		就職者													その他											合計
		大学教員・助手等（任期無）	大学教員・助手等（任期有）	大学教員（非常勤講師）	日本学術振興会特別研究員	研究機関等研究職	ポストドクター	民間企業等社員（総合職）	民間企業等社員（研究職）	民間企業等社員（一般職）	学校教諭（非常勤教諭含む）	公務員	家業	その他	小計	研究生	研究活動継続	学位取得準備	受験準備	就職活動継続	留学	不詳	その他	小計		
法学研究科	修了	1												1					1					1	2	
	満期退学													0										0	0	
経済学研究科	修了						1							1					2					2	3	
	満期退学													0										0	0	
経営学研究科	修了	2	1				1						1	5										0	5	
	満期退学												0											0	0	
社会学研究科	修了	1	1				1						1	4										0	4	
	満期退学												0									2	2	2		
国際関係研究科	修了	2					1							3										0	3	
	満期退学								1			1	2								1		1	3		
政策科学研究科	修了													0							0	2	2	2		
	満期退学												0										0	0		
文学研究科	修了						1				1			2					5		0	3	8	10		
	満期退学										1		2	3								1	1	4		
理工学研究科	修了		3				2	4	6				1	16							0	1	1	17		
	満期退学						1	1						2					2				2	4		
情報理工学研究科	修了		1				3	1	6		1	2		1	15				4		0	2	6	21		
	満期退学						1						1	2								1	1	3		
生命科学研究科	修了			1			1	1	3					1	7									0	7	
	満期退学													0										0	0	
スポーツ健康科学研究科	修了	3	1			1	1	2	1				1	10										0	10	
	満期退学													0										0	0	
テクノロジー・マネジメント研究科	修了							1	1					1	3						0	1	1	4		
	満期退学													0									0	0		
先端総合学術研究科	修了	2	1		3		1			1				8					4		0	4	8	16		
	満期退学												1	1								1	1	2		
薬学	修了								3					1	4									0	4	
	満期退学													0										0	0	
人間科学研究科	修了	2		2			7							1	12				1		0	1	2	14		
	満期退学													0								1	1	1		
食マネジメント研究科	修了							1	1					2										0	2	
	満期退学													0										0	0	
修了小計		13	8	3	3	1	17	13	21	1	1	3	0	9	93	0	0	0	0	17	0	0	14	31	124	
満期退学小計		0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	1	0	5	10	0	0	0	0	2	0	0	7	9	19	
合計		13	8	3	3	1	19	14	21	2	1	4	0	14	103	0	0	0	0	19	0	0	21	40	143	

V. 2024 年度事業内容・実績

1. 奨学金および研究助成制度(修士・博士課程前期課程)

1 年次対象成績優秀者奨学金

1 年次対象成績優秀者奨学金は、入学試験(転入学のための試験を除く)で優秀な成績を収めた者が大学院修士課程、博士課程前期課程、一貫制博士課程または専門職学位課程に入学することの奨励を目的としています。なお、各区分の給付額・給付割合は、研究科によって異なります。

2024 度 採択者数

【図表 1-1. 1 年次 I・II・III・IV・V 採択状況】

研究科	I	II	III	IV	V
法学研究科		3			
経済学研究科	9	5	3		
経営学研究科	6	3			
社会学研究科	1	4			
文学研究科	11				
理工学研究科	14	110			
国際関係研究科	1	3	2		2
政策科学研究科	2	8			
言語教育情報研究科		6			
テクノロジー・マネジメント研究科			31		
スポーツ健康科学研究科		8			
映像研究科		3	2		
情報理工学研究科	43	39			
生命科学研究科	49				
先端総合学術研究科		4			
人間科学研究科	15				
薬学研究科	6	7			
食マネジメント研究科		5			
教職研究科		7			
合計	157	215	38	0	2
給付総額	106,000,000				

2 年次対象成績優秀者奨学金

2 年次対象成績優秀者奨学金は、本学大学院の修士課程、博士課程前期課程および一貫制博士課程(1 年次入学)の第 3・4 セメスターに相当する期間の奨学金です。優秀な学修および研究を行っている大学院学生を育英し、さらなる学修および研究を奨励することを目的としたものです。なお、Ⅰ～Ⅲの区分の給付額・給付割合は、研究科によって異なります。

2024 度 採択者数

【図表 1-2. 2 年次Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ採択状況】

研究科	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
法学研究科	2	3	
経済学研究科	1	5	8
経営学研究科	7	2	
社会学研究科	1	5	
文学研究科	1	11	
理工学研究科	14	101	
国際関係研究科	5	3	
政策科学研究科	3	10	
言語教育情報研究科		10	
テクノロジー・マネジメント研究科	2	9	17
スポーツ健康科学研究科		8	
映像研究科	1	1	3
情報理工学研究科	44	33	
生命科学研究科	45	8	
先端総合学術研究科		4	
人間科学研究科	2	11	
薬学研究科	8	8	
食マネジメント研究科		5	
教職研究科		6	
合計	136	243	28
給付総額	107,430,000		

博士課程前期課程学生学会奨学金

(1) 支給額の上限および支給回数

【図表 1-3. 支給額】

種類	支給金額
学会参加奨励(オンライン参加)	5,000 円
学会参加奨励(現地参加)	10,000 円
学会発表奨励(オンライン発表／誌上開催)	20,000 円
学会発表奨励(国内現地発表)	30,000 円
学会発表奨励(国外現地発表)	100,000 円

奨学金の支給回数は、年次ごとに以下の回数制限を設けています。

【図表 1-4. 支給回数の上限】

【図表 1-1: 奨励回数と上限】		
学会参加奨励(オンライン参加)	年次 1 回まで	4 種の奨学金からいずれか年次 2 回まで
学会参加奨励(現地参加)		
学会発表奨励(オンライン発表／誌上開催)	年次 2 回まで	
学会発表奨励(国内現地発表)		
学会発表奨励(国外現地発表)	年次 2 回まで	年次 1 回

(2) 支給件数

【図表 1-5. 学会参加奨励(オンライン参加) 給付件数】

研究科	補助件数
法学研究科	1
経済学研究科	5
経営学研究科	
社会学研究科	
文学研究科	
理工学研究科	1
国際関係研究科	
政策科学研究科	
言語教育情報研究科	2
テクノロジー・マネジメント研究科	
スポーツ健康科学研究科	1
映像研究科	
情報理工学研究科	
生命科学研究科	
先端総合学術研究科	
薬学研究科	
人間科学研究科	
食マネジメント研究科	
合計	10

【図表 1-6. 学会参加奨励(現地参加) 給付件数】

研究科	補助件数
法学研究科	2
経済学研究科	13
経営学研究科	1
社会学研究科	1
文学研究科	17
理工学研究科	39
国際関係研究科	15
政策科学研究科	3
言語教育情報研究科	11
テクノロジー・マネジメント研究科	5
スポーツ健康科学研究科	11
映像研究科	
情報理工学研究科	12
生命科学研究科	4
先端総合学術研究科	6
薬学研究科	3
人間科学研究科	10
食マネジメント研究科	6
合計	159

【図表 1-7. 学会発表奨励(オンライン発表／誌上開催) 給付件数】

研究科	補助件数
法学研究科	
経済学研究科	2
経営学研究科	
社会学研究科	
文学研究科	1
理工学研究科	6
国際関係研究科	1
政策科学研究科	2
言語教育情報研究科	
テクノロジー・マネジメント研究科	
スポーツ健康科学研究科	4
映像研究科	
情報理工学研究科	12
生命科学研究科	
先端総合学術研究科	
薬学研究科	
人間科学研究科	1
食マネジメント研究科	
合計	29

【図表 1-8. 学会発表奨励(国内現地発表)給付件数】

研究科	補助件数
法学研究科	
経済学研究科	6
経営学研究科	4
社会学研究科	4
文学研究科	53
理工学研究科	444
国際関係研究科	10
政策科学研究科	3
言語教育情報研究科	6
テクノロジー・マネジメント研究科	6
スポーツ健康科学研究科	29
映像研究科	10
情報理工学研究科	205
生命科学研究科	218
先端総合学術研究科	5
薬学研究科	45
人間科学研究科	30
食マネジメント研究科	3
合計	1081

【図表 1-9. 学会発表奨励(国外現地発表)給付件数】

研究科	補助件数
法学研究科	
経済学研究科	3
経営学研究科	1
社会学研究科	3
文学研究科	2
理工学研究科	70
国際関係研究科	2
政策科学研究科	1
言語教育情報研究科	3
テクノロジー・マネジメント研究科	
スポーツ健康科学研究科	15
映像研究科	3
情報理工学研究科	63
生命科学研究科	26
先端総合学術研究科	1
薬学研究科	2
人間科学研究科	1
食マネジメント研究科	2
合計	198

博士課程前期課程研究実践活動補助金

本補助金は、研究科の人材育成目的および 3 つのポリシー(学位授与方針、教育課程編成・実施方針、入学者受入れ方針)に基づいて、学外で実施する研究実践活動への参加を奨励し、援助することを目的とする制度です。

(1)研究実践活動補助金採択プログラム、補助執行総額

【図表 1-10. 国内研究実践活動プログラム一覧】

研究科	研究実践活動・プログラム名	参加人数	執行金額(円)
法学研究科	法務実習	8	145,000
経済学研究科	税財務インターンシップ	5	95,000
文学研究科	国内派遣型 文化財アーカイブ関連組織実務実習プログラム		
理工学研究科	建築士事務所におけるインターンシッププログラム		
国際関係学研究科	国内インターンシップ／国内フィールドリサーチ活動	2	45,000
政策科学研究科	Regional co-creation study		
	地域共創研究	1	30,000
言語教育情報研究科	日本語教育実習	8	160,000
テクノロジー・マネジメント研究科	プラクティカム(課題解決型長期企業実習)	32	960,000
スポーツ健康科学研究科	スポーツ人文社会科学演習Ⅱ・Ⅲ、身体運動科学演習Ⅱ・Ⅲ、スポーツ健康科学キャリアプロジェクト(プロジェクト研究に基づくフィールドリサーチ)		
映像研究科	映像現場研修		
	科学映像の制作理論と制作	2	30,000
生命科学研究科	国費特別プログラム【国内】現地実習		
人間科学研究科	学外実習 03(震災復興支援)		
合計		58	1,465,000

【図表 1-11. 国外研究実践活動プログラム一覧】

研究科	研究実践活動・プログラム名	参加人数	執行金額(円)
経営学研究科	特殊講義Ⅳ(デザイン・マネジメント)		
文学研究科	海外派遣型 著名博物館・図書館実務実習プログラム	3	120,000
理工学研究科	建築士事務所におけるインターンシッププログラム		
	パリ・ラ・ヴィレット国立高等建築学校交換留学プログラム	2	400,000
	特殊講義(アドバンスト海外スタディ)	4	120,000
理工学研究科・情報理工学研究科 ・生命科学研究科・薬学研究科	国際力を備えた技術系大学院学生の育成	11	1,205,000
理工学研究科・生命科学研究科	インド工科大学ハイデラバード校 PBL プログラム	1	20,000

国際関係研究科	国外インターンシップ活動／国外フィールドリサーチ活動	1	60,000
言語教育情報研究科	日本語教育実習	4	240,000
	Intensive Graduate TESOL Program at USQ(「TESOL 教授法と実習」「TESOL リサーチスキルズ」)	12	405,000
スポーツ健康科学研究科	スポーツ人文・社会科学演習Ⅱ・スポーツ人文社会科学演習Ⅲ、身体運動科学演習Ⅱ・Ⅲ、スポーツ健康科学キャリアプロジェクト(プロジェクト研究に基づくフィールドリサーチ)		
情報理工学研究科	夏期 海外 IT 研修「インド・シンビオシス国際大学」(共通科目:海外実習)		
	海外インターンシップ	5	325,000
生命科学研究科	ストラスブル大学化学・ポリマー材料科学ヨーロッパスクール交換留学	1	200,000
	マレーシアプトラ大学ライフサイエンスプログラム	2	90,000
薬学研究科	2024 年度 Advanced Pharmacy Practice Experience(APPE)		
人間科学研究科	学外実習 04(韓国・成均館大学実習)	2	60,000
	学外実習 05(中国・蘇州実習)	2	40,000
	学外実習 06(ベトナム・ハノイ実習)	2	60,000
	学外実習 07(台北教育大学実習)	3	60,000
	学外実習 08(台湾・成功大学実習)	1	20,000
合計		56	3,425,000

2. 奨学金および研究助成制度(博士課程後期課程)

研究奨励奨学金

本奨学金は、本学大学院に在学する優秀な研究業績を有する大学院生の授業料を援助することにより、当該課程における研究活動を奨励することを目的とする奨学金です。

(1)概要

【S 給付】

テニユアポスト獲得においてきわめて重要なキャリアである日本学術振興会特別研究員への申請を奨励し、当該年度の研究員採用者および前年の募集における1次審査通過者について、授業料相当額の奨学金を給付します。(非公募制)

【A 給付】

各研究科の人材育成目標に照らして優れた研究業績をあげた者、あるいはあげることが期待できる者(各研究科在学生数の5%を上限)に対して、S 給付と同様に授業料相当額の奨学金を給付します。

【B 給付】

A 給付に準ずる者(各研究科在学生数の15%を上限)に対して、授業料の半額相当額の奨学金を給付します。

(2)2024 年度給付・採択件数

【図表 2-1. 2024 年度研究奨励奨学金給付総額・採択件数】

研究科	A 給付・B 給付 申請者数	採択件数		
		S	A	B
法学研究科	2		1	1
経済学研究科	3		2	1
経営学研究科	9		2	4
社会学研究科	10	1	2	5
文学研究科	18	2	4	10
理工学研究科	24	4	5	13
国際関係研究科	2	1	1	0
政策科学研究科	1		0	0
テクノロジー・マネジメント研究科	4		1	2
スポーツ健康科学研究科	8		3	1
情報理工学研究科	15		4	10
生命科学研究科	7	2	2	5
先端総合学術研究科	27	8	7	19
薬学研究科(薬学専攻)	1		1	0

薬学研究科(薬科学専攻)	3	1	1	2
人間科学研究科	24	5	5	14
食マネジメント研究科	3		1	2
合計	161	24	42	89
給付総額	53,525,000			

(3)2024 年度選考実施状況

本奨学金(A 給付・B 給付)については、概要に記載のとおり、各研究科の教育研究上の目的に基づき、当該研究科においてそれぞれ選考基準等を定め、採択者を選考しています。各研究科の選考にかかる方法および体制は、次の表のとおりです。

【図表 2-2. 博士課程後期課程研究奨励奨学金の選考状況】

研究科	2023 年度選考総括		(参考) 教育研究上の 目的
	選考方法(評価ポイント)	選考体制	
法学研究科	<p>法律学・政治学の研究者およびその高度な専門知識を必須とする職業分野で活躍する人の養成を目的とする。</p> <p>法学専攻博士課程後期課程は、博士課程前期課程での研究成果を踏まえ、自らの専門領域について主体的に研究課題を定め、自らの独創的な視点で、研究計画にしたがって研究を進めるとともに、その成果を博士論文として結実させることができる自立した学術研究者等の育成を目的とする。</p>	<p>本研究科の人材育成目的をふまえて、申請書の「現在までの研究状況」「これからの研究計画」「研究の特色・独創的な点」の各欄の記載内容、及び研究業績に基づき評価を行う。なお、研究業績については、下記①～③の観点から評価を行う。</p> <p>①学術雑誌等での論文の公表。</p> <p>②研究報告。なお、本観点における評価の優先順位については、第一に国際会議、第二に全国規模の学会、第三に地域規模の学会・研究会、第四に学内の研究会とする。</p> <p>③学術雑誌等での論文以外の論稿(「翻訳」等)の公表。</p>	<p>大学院教務委員会において書類選考を行い、その結果を法学部執行部会議で確認した上で、法学研究科委員会において採用者を決定する</p>
経済学研究科	<p>経済学の高度な専門性をもち、立命館憲章に定める「正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間」を育成することを目的とする。</p> <p>博士課程後期課程は、広い視野と深い専門性および優れた独創性を持ち、そして新たな領域の研究分野を自ら切り開いてゆくことができる高い研究力量を備えた研究者を養成することを目的とする。また、世界的に高まっている博士学位を有する高度専門職業人へのニーズにこたえるため、留学生を含め国際通用力の高い論理的思考力と構想力および創造性を持った人材を養成することを目的とする。</p>	<p>人材育成目的に照らして、研究業績(論文、学会発表等)の評価を最優先とする。</p>	<p>研究科執行部により、書類選考を行い、執行部会議、研究科委員会にて採用者を決定する。</p>

経営学研究科	<p>経営学の高度な専門力量をもったビジネスパーソンおよび研究者を養成することを目的とする。</p> <p>博士課程後期課程は、経営学分野の研究活動を行うに必要な高度な研究能力を身につけ、将来にわたって研究活動を継続できる自立した研究者の育成を目的とする。</p>	<p>本研究科の人材目的に即し、投稿論文数、学会発表の業績、修士論文内容を重視して点数化し、学業成績の評価とあわせて総合評価をおこなう。</p>	<p>大学院担当副学部長が原案を作成し、経営学研究科教学委員会、研究科委員会に諮り採用者を決定する。</p>
社会学研究科	<p>現代社会が提起する諸問題を社会学と既存の学問諸分野との協同によって解明し、社会的に要請される実践的課題にこたえる研究者と専門職業人の養成を目標とする。</p> <p>博士課程後期課程は、現代社会が提起する諸問題に関して、社会学を中心としつつも、社会諸科学の協同によって、先端的で多面的・学際的な理論と実証的な研究を行い、博士論文を執筆し、大学の教員や研究諸機関等の研究員として活躍できる人材を育成することを目的とする。</p>	<p>①後期課程 1 回生については、「研究の進捗状況と将来性」に重点をおき、それに「研究業績」を加え、2 つの要素を総合的に判断する。</p> <p>②後期課程 2 回生以上については、「研究業績」に重点をおき、「研究の進捗状況と将来性」を加え、2 つの要素を総合的に判断した。判断にあたっては、点数化により客観化を行う。</p> <p>「研究業績」については研究科で定めた「奨学金選考基準別表」の研究業績に関する評価基準に基づき審査を行う。</p>	<p>「研究の進捗状況と将来性」および「研究業績」の評価は研究科教学委員で分担して行い、執行部会議、研究科教学委員会、研究科委員会にて採用者を決定する。</p>
文学研究科	<p>人文学専攻博士課程後期課程は、人文学の総合的な研究の場として、新たな学問(領域)を切り拓く高度な能力を有した人材を養成することで、人文学研究への社会的・現代的要請にも応えていくことを目的とする。</p> <p>行動文化情報学専攻博士課程後期課程は、人文学と情報学を有機的に統合し、伝統的な人文学と実践的な情報学が探求してきた内容や方法論を修得・発展させ、その成果を共有・発信できる能力を有した人材を養成することで、人文学研究への社会的・現代的要請にも応えていくことを目的とする。</p>	<p>本研究科における教育研究上の人材育成目的に即して研究業績を重視し、各々の項目(博士論文、研究論文、著書、学会発表、その他)について点数化した業績シートを作成することによって、客観的に評価する。</p> <p>特に査読誌や外国語雑誌に掲載された論文、また国際学会における発表を高く評価しているが、この方式では累積点に基づく評価となるため、低回生に不利な場合がある。そこで 2016 年度から累積点を回生で割る方式に変更し、点数の上位者から採用する。</p>	<p>申請者の所属専修において、申請者の業績を文学研究科の内規に基づいて点数化するシートを作成した。研究科執行部による業績シートの確認を経て、研究科委員会で評価を行い、採用者を決定する。</p>
理工学研究科	<p>理工学の専門領域に関する高度な理論と技術に加え、創造的発見能力を兼ね備えた研究者、高度専門職業人を養成することを目的とする。</p> <p>基礎理工学専攻博士課程後期課程は、数学または物理学の専門領域における高度な知識と創造 基礎理工学専攻博士課程後期課程は、数学または物理学の専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。</p> <p>電子システム専攻博士課程後期課程は、電気・電子工学・光工学・情報工学などの専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。</p> <p>機械システム専攻博士課程後期課程は、機械工学・ロボティクス・マイクロ機械などの専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問</p>	<p>理工学研究科の人材育成目的に照らして、優れた研究業績をあげた者、あるいはあげることができる者。研究状況、研究計画、学会発表や論文数などの研究業績を総合的に評価して奨学金採用者を選考している。</p>	<p>それぞれの専攻・コースにおける学系会議・学科会議等において、書類選考を行い、執行部会議、専攻長会議にて奨学金採用者を決定する。</p>

	<p>題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。</p> <p>環境都市専攻博士課程後期課程は、土工学・環境工学・建築学などの専門領域における高度な知識と創造的な研究能力を修得し、問題設定・解決能力および問題解決へ向けてのリーダーシップを備えた者の育成を目的とする。</p>		
国際関係研究科	<p>グローバル化する現代社会を、政治、経済、文化・社会のそれぞれの側面において、学際的な社会科学のアプローチで解明する国際関係学の研究者、および国際関係学の専門知識をそなえ、国際社会で活躍する職業人を育成することを目的とする。</p> <p>博士課程後期課程は、国際関係学の専門知識と異文化間の媒介能力とに裏打ちされた学際的・複眼的な視点に立ち、国際社会における秩序や平和の構築、国際開発・協力の促進、多文化社会の諸課題の解決などの課題について、独創的な分析を行う力を有する人材、および高度な専門家として実践的な課題解決に貢献する力を有する人材を育成することを目的とする。</p>	<p>以下の本研究科における選考内規に基づき、選考を行う。</p> <p>1.研究成果について ①研究成果の期間設定 過去3年度以内(休学期間含む)の成果をカウントすることを確認(入学前も含むことを再確認)。年度のみ掲載されており、「過去3年」に含まれるか判断に迷う場合は、本人に確認すること。 ※研究成果には、出版前ですでに掲載が確定しているものも含むこと。</p> <p>②学年ごとの係数変更(研究成果) D3×1、D2×1.5、D1×3</p> <p>上記係数変更の考え方として、D3以下はD3の回生を基準に係数を算出。</p> <p>D1:3/1=係数3 D2:3/2=係数1.5</p> <p>2.研究計画について 当該年度学振特別研究員申請に伴う、意欲の加点0.5点。</p>	<p>研究科運営会議で原案を作成し、執行部会議、研究科委員会に諮り採用者を決定する。</p>
政策科学研究科	<p>政策科学研究科は、現代社会の政策課題の発見と解決を促す知識の生産および人材育成の場であることを通じて、諸学の実践的総合による社会的要請への応答を目的としています。</p> <p>政策科学研究科博士課程後期課程では、現代社会の政策課題の発見と解決を促す知識の生産および人材育成の場であることを通じて、諸学の実践的総合による社会的要請に応えるという目的を達成するため、現代社会が直面する政策課題とその適切な解決策の創造に関する研究能力の育成を目指しています。そして、政策科学の研究を通じて社会の諸問題に取り組むより高い能力を身につけた研究者を輩出することを、本課程の目標としています。</p>	<p>教育研究上の人材育成目的に照らし合わせて、本人の申請に基づき、研究成果、研究計画、研究報告書を総合的に評価、選考する。</p>	<p>政策科学研究科の選考方針に基づき、審査案について政策科学研究科委員会で審議のうえ、採用者を決定する。</p>
テクノロジー・マネジメント研究科	<p>科学技術の価値を理解し、社会発展に寄与する知識や技能・能力を持った人材を養成することを目的とする。</p> <p>博士課程後期課程は、企業などにおける実践を普遍的、体系的概念や方法論に昇華し形式知化する研究者の育成を目指す。技術者・経営者など、技術経営の実践者としての経験を学問研究の場にフィードバックし、企業などにおける実践を普遍的、体系的概念や方法論に昇華し形式知化し、グローバルに活躍できる自由にして進取の気風に富んだ</p>	<p>申請日から遡って5年以内に公表した査読付き・査読なし論文の本数、著書、学会発表の本数等を勘案した上で総合的に審査し、採否と奨学金A・Bの採用者を決定する。審査にあたっては、直近に公表した業績をより重視して評価する。</p>	<p>MOT教員の中から複数名の選考委員を選出し、選考委員が書類審査のうえ採用案を作成する。採用案を教授会で審議し採用者を決定する。</p>

	人材を育成することを目的とする。		
スポーツ健康科学研究科	<p>スポーツ健康科学の高度な専門性に基づく理論と実践を有し、豊かな人間性とリーダーシップを備え、社会の発展に貢献する有為な人材の養成を目的とする。</p> <p>博士課程後期課程は、スポーツ健康科学分野において先端の研究成果をあげ、その成果を実践に結びつけるとともに、研究プロジェクトなどにおいてリーダーシップを発揮することができる研究者の養成を目的とする。</p>	<p>教育研究上の人材育成目的に照らし合わせて、本人の申請に基づき、投稿論文や著書、国際／国内学会での研究発表等の研究業績をポイント化し、中でも国際的な業績を重視した上で、評価する。</p>	<p>研究科委員会にて、選考方針を定め、執行部によって指名された選考委員による選考委員会を行う。選考委員会による選考(案)は、研究科委員会にて採用者を審議・決定する。</p>
情報理工学研究科	<p>情報学の高度な専門性を有する人材の育成を目的とする。</p> <p>博士課程後期課程は、情報技術の応用、最先端の高度な理論および技術、研究倫理に関する知識、創造的問題発見能力、問題分析能力、問題解決能力、研究遂行能力ならびにコミュニケーション能力を備え、社会の重要な課題に革新的に取り組んで解決し、分野によらず国内外の第一線で活躍できる研究者および高度専門職業人を養成することを目的とする。</p>	<p>申請者の研究業績内容に応じて業績毎にポイント化し、ポイントの総計で選考する。対象となる業績は、①筆頭著者論文でかつ、査読付き論文誌掲載論文または査読付き国際会議の会議録掲載論文またはその他口頭発表・ポスター発表、ならびに②受賞である。業績にはエビデンス(別刷や会議プログラムなど)を義務付ける。</p>	<p>事務局で応募書類に不備がないかをチェックし、執行部でポイント化とポイントの総計を算出した。執行部会議を経て、研究科委員会で審議の上、選考結果を承認する。</p>
生命科学研究科	<p>博士課程後期課程では、探求心をもって研究および開発に取組み、生命科学と関連分野における新しい知見を見出し、新しい技術を生み出すことによって、人間の幸福と自然が調和した持続可能で豊かな社会の実現に貢献する研究者および技術者を育成することを目的とする。</p>	<p>本研究科の人材育成目的に即し、研究業績を重視して選考を行う。</p> <p>研究業績についてはポイント化し、客観的に A と B の採用者を確定する。</p> <p>また、できるだけ多くの院生に奨学金を支給できるようにするという方針から過年度の採択決定に至った研究業績については対象としない。</p>	<p>執行部会議、研究科委員会にて確認した選考基準に基づき、研究科長および大学院担当副学部長を中心とする執行部が採用原案を作成。研究業績の点数化を行う際には、申請者の指導教員、コース長に意見を求め、公平になるよう努める。</p> <p>採用原案を執行部会議、研究科委員会で確認し、採用者を決定する。</p>
先端総合学術研究科	<p>現代の諸科学分野に共有された主題群をプロジェクト研究によって追求することを通じて、新たな研究領域の創出を担う先端的で総合的な知の探求者、制作者としての研究者を養成することを目的とする。</p>	<p>教育研究上の人材育成目的に照らし合わせて、本人の申請書から論文数などから研究成果を評価、学会の発表数から研究成果を評価、今後の研究計画を評価、学振申請にトライしているかを評価し、それを総合的に評価し選考する。</p>	<p>教授会で各項目の点数化、選考方法を確認し、副研究科長による点数化、執行部で確認、点数上位から A 給付、B 給付案を教授会で審議し、決定。上回</p>

			生ほど研究評価が高くなる傾向はあるが、現時点での選考方法としては適切である。
薬学研究科	薬学の専門的知識と研究力を備え、使命感、倫理観を有する高度な薬剤師、医療人、研究者として、地域や社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。	申請者の研究業績内容に応じて業績毎にポイント化し、ポイントの総計、および学外奨学金の受給状況を考慮して選考を行う。対象となる業績は、学術雑誌等の論文・著書・総説、国際および国内学会・シンポジウム等における発表、特許・受賞歴である。	事務局で応募書類に不備がないかをチェックし、大学院担当副学部長を中心に執行部でポイント化とポイントの総計を算出し、執行部会議を経て、研究科委員会で審議の上、選考結果を承認する。
人間科学研究科	心理学とその隣接領域の科学的、総合的知識に基づいて包括的に人間を理解し、理論と実践を相互還流させる高度な技能と対応力を身につけることで、人々のニーズや社会的要請を適切に捉えて、学術と社会の発展に貢献することができる人材を育成することを目的とする。 博士課程後期課程では、高度に専門的な研究能力と技能にもとづいて、心と行動に関する人類の知を拡大し、総合的、倫理的な視点から複雑な社会の問題の解決に貢献することができる人材の育成を目的とする。	申請者の研究業績内容に応じて業績毎にポイント化し、ポイントの総計で選考を行う。対象となる業績は、①研究論文②著書③その他学術刊行物への掲載や特許など④研究発表の4項目とする。なお、ポイントは学年ごとに係数変更(D1×1、D2×1/2、D3×1/3)を行う。	事務局で応募書類に不備がないかをチェックし、大学院副研究科長を中心に執行部でポイントの総計を算出し、執行部会議を経て、教授会にて選考結果を承認する。
食マネジメント研究科	食マネジメント研究科は、経済学・経営学の専門的知見を用いて、食に関わる経済活動を研究し、実践的なマネジメント能力を備えた高度専門職業人および研究者の育成を目的とする。 博士課程後期課程では、食マネジメント研究の発展に寄与する研究活動を行い、ここで培ったマネジメント能力を用いて研究成果を社会に還元するとともに、研究倫理を有しつつ学術的手法を用いることができる研究者を育成する。	本研究科の人材育成目的に照らして、研究状況、研究計画、学会発表や論文数などの研究業績を総合的に評価して選考する。	大学院運営委員会で原案を作成し、執行部会議、研究科委員会に諮り採用者を決定する。

博士課程後期課程学生学会奨学金

学会発表は、日本学術振興会特別研究員など、各種研究助成の申請に際しても考慮される重要な実績であり、学術的な経験を積む貴重な研鑽の場であると言えます。さらに、研究業績を蓄積し、修業年限で学位取得の水準まで到達する点においても、学会参加や発表は基幹的な活動の一つです。このため、学会への参加または学会での研究成果の発表を奨励し、援助することを目的としています。

(1) 支給額の上限および支給回数

【図表 2-3. 支給額】

種類	支給金額※
学会参加奨励(オンライン参加)	5,000 円
学会参加奨励(現地参加)	10,000 円
学会発表奨励(オンライン発表／誌上開催)	20,000 円
学会発表奨励(国内現地発表)	30,000 円
学会発表奨励(国外現地発表)	100,000 円

※日本学術振興会特別研究員は除く。日本学術振興会特別研究員は、実際にかかった経費を大学院課にて計算し、支給金額を上限とした実費を支給。

※奨学金の支給回数は、年次ごとに以下の回数制限を設けています。

【図表 2-4. 支給回数の上限】

学会参加奨励(オンライン参加)	年次 1 回まで	4 種の奨学金からいずれか 年次 2 回まで
学会参加奨励(現地参加)		
学会発表奨励(オンライン発表／誌上開催)	年次 2 回まで	
学会発表奨励(国内現地発表)		
学会発表奨励(国外現地発表)	年次 2 回まで	年次 2 回

(2) 支給件数

【図表 2-5. 学会参加奨励(オンライン参加) 給付件数】

研究科	補助件数
法学研究科	
経済学研究科	
経営学研究科	
社会学研究科	
文学研究科	2
理工学研究科	

国際関係研究科	
政策科学研究科	2
テクノロジー・マネジメント研究科	
スポーツ健康科学研究科	
情報理工学研究科	1
生命科学研究科	
先端総合学術研究科	2
薬学研究科	
人間科学研究科	2
食マネジメント研究科	
合計	9

【図表 2-6. 学会参加奨励(現地参加) 給付件数】

研究科	補助件数
法学研究科	
経済学研究科	
経営学研究科	2
社会学研究科	4
文学研究科	14
理工学研究科	13
国際関係研究科	1
政策科学研究科	
テクノロジー・マネジメント研究科	1
スポーツ健康科学研究科	2
情報理工学研究科	2
生命科学研究科	1
先端総合学術研究科	9
薬学研究科	4
人間科学研究科	6
食マネジメント研究科	3
合計	62

【図表 2-7. 学会発表奨励(オンライン発表／誌上開催) 給付件数】

研究科	補助件数
法学研究科	
経済学研究科	2
経営学研究科	

社会学研究科	
文学研究科	
理工学研究科	3
国際関係研究科	1
政策科学研究科	1
テクノロジー・マネジメント研究科	
スポーツ健康科学研究科	1
情報理工学研究科	4
生命科学研究科	
先端総合学術研究科	3
薬学研究科	
人間科学研究科	3
食マネジメント研究科	
合計	18

【図表 2-8 学会発表奨励(国内現地発表)給付件数】

研究科	補助件数
法学研究科	
経済学研究科	9
経営学研究科	12
社会学研究科	12
文学研究科	40
理工学研究科	38
国際関係研究科	10
政策科学研究科	7
テクノロジー・マネジメント研究科	21
スポーツ健康科学研究科	27
情報理工学研究科	25
生命科学研究科	34
先端総合学術研究科	30
薬学研究科	21
人間科学研究科	41
食マネジメント研究科	6
合計	333

【図表 2-9. 学会発表奨励(国外現地発表)給付件数】

研究科	補助件数
法学研究科	
経済学研究科	16
経営学研究科	6
社会学研究科	7
文学研究科	10

理工学研究科	22
国際関係研究科	13
政策科学研究科	1
テクノロジー・マネジメント研究科	2
スポーツ健康科学研究科	21
情報理工学研究科	28
生命科学研究科	11
先端総合学術研究科	8
薬学研究科	9
人間科学研究科	11
食マネジメント研究科	1
合計	166

立命館大学大学院博士課程後期課程 博士課程院生研究支援奨学金

本奨学金は、本大学院博士課程後期課程相当(博士課程後期課程、一貫制博士課程(3回生以上)・4年制博士課程)に在学する優秀な学生の優れた研究計画に対して、その実現に向けた経済的な負担を軽減、ならびに在学中の学位取得に資する研究活動を促進することで、博士論文の早期完成に繋げ、標準修業年限内での修了を後押しするものです。1件あたり10万円・30万円・50万円の3種類のいずれかを給付します。

【図表 2-10 博士課程院生研究支援奨学金支給額】

研究科	採択件数	10 万円	30 万円	50 万円
法学研究科	1	0	0	1
経済学研究科	3	0	2	1
経営学研究科	1	0	0	1
社会学研究科	5	0	1	4
文学研究科	6	0	0	6
理工学研究科	12	1	2	9
国際関係学部研究科	0	0	0	0
政策科学研究科	1	0	1	0
テクノロジー・マネジメント研究科	2	1	0	1
スポーツ健康科学研究科	10	0	0	10
情報理工学研究科	3	0	0	3
生命科学研究科	3*	0	0	2*
先端総合学術研究科	8	0	1	7
薬学研究科	3	0	2	1
人間科学研究科	11	1	1	9
食マネジメント研究科	0	0	0	0
合計	69	3	10	56

*1 名採択後辞退のため、件数と支給件数が異なります

博士論文出版助成制度

本制度は、本学大学院博士課程後期課程の大学院生の博士論文の研究成果の公刊を助成促進するものです。専門分野における優れた研究業績を積極的に公表することを目的とし、本学大学院博士課程後期課程にて博士学位を授与された方々が、当該博士学位論文を出版する際、その経費の一部を助成します。

※人文系の研究科のみ対象

【図表 2-11 博士論文出版助成制度 申請数・採択件数・執行予定額(※)】

研究科	採択件数	執行予定総額(円) (※)
法学研究科	1	1,000,000
経済学研究科		
経営学研究科	1	600,000
社会学研究科	2	1,600,000
文学研究科		
国際関係研究科		
政策科学研究科		
テクノロジー・マネジメント研究科	1	600,000
スポーツ健康科学研究科		
先端総合学術研究科	8	6,800,000
人間科学研究科	7*	4,100,000*
食マネジメント研究科		
合計	20	15,000,000

(※)本助成金の執行は博士論文の刊行後となるため、執行予定金額として記載しています。

*1名採択後辞退のため、採択件数には辞退者を含んで集計していますが、執行予定金額には辞退者の執行予定金額は含まれていません。

3. 奨学金および研究助成制度(博士課程前期課程・後期課程共通)

研究会活動支援制度

研究会活動は、研究を通じた学びや交流、自身の研究を周知する機会となることはもちろん、研究者としてのプレゼンスを獲得することで、学会発表や論文執筆などの若手研究者に必要な業績・キャリアにつながる可能性があります。本制度は、本学の複数の研究科の大学院学生で構成される研究会に対して、年間 30 件を上限に研究会活動に必要な施設貸与や経費の支援(年間 10 万円)を行っています。

【図表 3-1 研究会活動支援制度支援対象研究会】

研究会名	研究課題	研究会構成
マインドフルネス研究会	マインドフルネスは逆輸入なのか一質的なアプローチから見る禅とマインドフルネス	●経営学研究科 D3×1●人間科学研究科 D2×1●人間科学研究科 D4×3
移動・空間・時間 研究会 (いくじ研)	世界の諸言語における移動表現と空間・時間認知に関する分析	●言語教育情報研究科 M2×1●言語教育情報研究科 MZ×1●文学研究科 D2×1●文学研究科 D6×1●学外×3
社会運動論研究会	社会運動とインターセクションナリティ	●社会学研究科 D2×1●社会学研究科 D4×1●先端総合学術研究科 D6×1●先端総合学術研究科 D7×1
日本思想史研究会	明治初期知識人の学知	●先端総合学術研究科 D6×1●文学研究科 D1×1●文学研究科 D2×2●文学研究科 D5×1
文構造研究会	日本語の文構造を研究し、その知見を実際の作文指導などに役立てる	●言語教育情報研究科 M2×1●文学研究科 D2×2●学外×1
立命館朝鮮近現代史研究会	朝鮮近現代史の諸問題の解明・研究の深化	●映像研究科 M2×1●文学研究科 D2×2●文学研究科 M1×1
メディア心理学研究会	SNS 上のエンゲージメントの力	●経営学研究科 D3×1●人間科学研究科 D2×1●人間科学研究科 D4×2●人間科学研究科 M2×3
現代東アジア映画研究会	現代東アジア映画の鑑賞を通じて、それぞれの国における文化・社会背景を理解する。	●先端総合学術研究科 D2×4●先端総合学術研究科 D3×1●文学研究科 D2×1
墓誌銘研究会	出土文字史料を用いた文献史料の補完と検証	●国際関係研究科 M3×1●文学研究科 D4×2●文学研究科 D6×1
歴史社会学研究会	歴史社会学の方法論に関する議論を学ぶ	●社会学研究科 D2×1●社会学研究科 M2×1●先端総合学術研究科 D2×1
古文用音声認識システム研究会	日本の古文用音声認識システムの構築と活用に関する研究	●情報理工学研究科 D6×1●文学研究科 D3×1●文学研究科 D5×1
マイクロアグレッション研究会	障害者の差別に関わる社会学的研究—地域共生社会を目指して	●産業社会学部 B4×1●社会学研究科 D2×2●社会学研究科 M2×1●先端総合学術研究科 D2×1
気候変動適応策研究会 (The Society of	適応策を取り組む理由を探ること	●国際関係研究科 D4×1●法学研究科

Climate Change Adaptation)		D1×1●法学研究科 M2×1●学外×2
社会倫理学会	ウェルビーイングに関する概念的・実証的考察——我々にとっての幸福とは何か	●社会学研究科 D2×1●文学研究科 D1×1●文学研究科 M1×2
日本近現代文芸研究会	近現代日本の文学・文化についての研究	●社会学研究科 D2×1●文学研究科 D2×1●文学研究科 D3×1●文学研究科 M1×1●文学研究科 M2×1
「鉄道の安全保障」研究会	安全保障の観点による、鉄道の輸送力および脆弱性の考察と整理	●政策科学研究科 M1×1●政策科学研究科 M2×1●文学研究科 M1×1
マイノリティとマジョリティのディスコミュニケーション研究会(MMD 研究会)	コミュニケーションの不平等とは何か——「障害」と「疾患」から考察する	●社会学研究科 M2×1●先端総合学術研究科 D2×2●先端総合学術研究科 D3×1●先端総合学術研究科 D4×1
社会学リーディング研究会	社会学的研究の視角・理論・方法におけるスキルアップと学術的展開	●社会学研究科 D3×1●社会学研究科 M2×1●先端総合学術研究科 D2×1●先端総合学術研究科 D4×1
実践日本語教育研究会	日本語教育現場で感じた問題意識を検討する。研究会を通して得た知見を実際の日本語教育現場での実践に生かす。	●言語教育情報研究科 M1×5●言語教育情報研究科 M2×2●文学研究科 D2×1
身体学際共創研究会	身体に関わる新たな科学的洞察および実践的な社会的利益の提案	●スポーツ健康科学研究科 D1×4●理工学研究科 D1×1
中東・イスラーム地域研究 院 生研究会	中東・イスラーム地域における政治・経済・社会研究のための方法論的検討を通じた実証研究の高度化、および、その成果をより広いコンテキストに位置付ける方法の探究	●国際関係研究科 D1×1●国際関係研究科 D3×1●国際関係研究科 M1×1●国際関係研究科 M2×2●文学研究科 M1×1●学外×1●学外 D1×2●学外 D2×1●学外 M1×3●学外 M2×1
身体学際共創研究会	身体に関わる新たな科学的洞察および実践的な社会的利益の提案	●経営学研究科 D3×1●人間科学研究科 D2×1●人間科学研究科 D4×3

M…修士・博士課程前期課程・一貫制博士課程 1・2 年次・専門職学位課程 D…博士課程後期課程・4 年制博士課程・一貫制博士課程 3 年次以上

【図表 3-2 研究会活動支援制度執行総額】

費目	金額(円)
消耗品	998,509
印刷費	179,984
旅費	278,783
講師謝礼・交通費	306,919
その他	64,870
合計	1,829,065

ベーススキル向上支援補助制度(CLA 講座受講料補助)

本制度は、社会に出てから実践的な力を発揮するために必要となる基本的素養(ベーススキル)の確実な習得を奨励することを目的として、その向上を図るために、本学の言語習得センター(CLA)が実施する課外の各講座を受講する大学院生および大学院進学予定者に対して、受講料の一部を補助しています。

(1)補助対象講座および申請要件

【図表 3-3. 補助金申請要件一覧】

講座名	申請要件
・TOEIC [®] L&R テスト対策講座	①プレイスメントテストを受験している。 ②講座の全授業回数の8割以上出席したことが、全学教育課で確認できる。 ③講座終了時のアチーブメントテストを受験している。
・TOEFL [®] テスト対策講座 (Listening&Reading コース)	①プレイスメントテストを受験している。 ②講座の全授業回数の8割以上出席したことが、全学教育課で確認できる。 ③講座終了時のアチーブメントテストを受験している。
・TOEFL [®] テスト対策講座 (Speaking コース、Writing コース)	①講座の全授業回数の8割以上出席したことが、全学教育課で確認できる。 ②(Writing コースのみ) 申請する講座の開講期間内で、4回全ての添削指導(メール)を受けたことが、全学教育課で確認できる。
・IELTS テスト対策講座 (総合コース、Speaking コース)	講座の全授業回数の8割以上出席したことが、全学教育課で確認できる。
・IELTS テスト対策講座 (Writing 添削コース)	申請する講座の開講期間内で、メールにて 5 回全ての添削指導を受けたことが、全学教育課にて確認できる。

※L&R は LISTENING AND READING の短縮形です。

※TOEIC[®]および TOEFL[®]は Educationl Testing Service(ETS)の登録商標です。

(2)2024 年度執行総額・補助件数

【図表 3-4. 研究科・課程別補助件数】

研究科	計
法学研究科	1
経済学研究科	1
経営学研究科	1
社会学研究科	7
文学研究科	2
理工学研究科	20
国際関係研究科	3
政策科学研究科	2
言語教育情報研究科	7
テクノロジー・マネジメント研究科	4
スポーツ健康科学研究科	3
映像研究科	0
情報理工学研究科	4
生命科学研究科	0
先端総合学術研究科	3
薬学研究科	4
人間科学研究科	2
食マネジメント研究科	0
法務研究科	0
経営管理研究科	4
教職研究科	1
合計	69

【図表 3-5. 講座別補助件数・執行金額】

講座	補助件数	補助金額(円)
IELTS™テスト対策講座	17	693,000
TOEFL®テスト対策講座	5	158,000
TOEIC®L&R テスト対策講座	47	1,692,000
合計	69	2,543,000

外国語論文投稿支援制度

本制度は、本学大学院生の英語論文による研究成果の国際的な発信を促進することを目的に、英文ジャーナル(論文誌)・国際会議等へ投稿を行う際に必要となる校正費や投稿費を補助する制度です。

補助の回数は、年度 1 回。同一論文・同一申請者に限り、校正費と投稿費の併給を認め、最大 8 万円を助成します。

【図表 3-6 補助の上限】

種類	補助額の上限
英語論文校正費	50,000 円
英語論文投稿費	50,000 円

【図表 3-7 申請件数】

研究科	修士・前期課程	博士・後期課程	計
法学研究科			
経済学研究科		2	2
経営学研究科		2	2
社会学研究科			
文学研究科			
理工学研究科	28	12	40
国際関係研究科	1	1	2
政策科学研究科		1	1
言語教育情報研究科			
テクノロジー・マネジメント研究科		11	11
スポーツ健康科学研究科	4	4	8
映像研究科			
情報理工学研究科	69	20	89
生命科学研究科	10	2	12
先端総合学術研究科		2	2
薬学研究科	2	9	11
人間科学研究科		4	4
食マネジメント研究科		1	1
合計	114	71	185

4. RARA 学生フェローシッププログラム

プログラム概要

「新たな価値を創造する次世代研究大学」と「イノベーション・創発性人材を生み出す大学」の実現に向けた中核構想として、『Ritsumeikan Knowledge Nodes (RKN)』があります。Nodes とは結合点を意味し、海外の大学・研究機関等との継続的なパートナーシップの構築し、国際的なネットワークにおいて本大学が重要かつユニークな知の Nodes の役割を果たすことを通じて、世界水準の研究・教育が展開していくことを目指しています。

その具体的施策として、立命館大学は RARA (立命館先進研究アカデミー、Ritsumeikan Advanced Research Academy) を設置し、大学院生を含む若手研究者から本大学を牽引する中核研究者までの研究者のキャリアパスに応じた研究環境の抜本的充実を図ることとしました。RARA 学生フェローシッププログラムは、本大学中核研究者の指導を受ける博士後期課程学生のうち、特に優秀な学生を RARA 学生フェローとして選抜・認定を行った上で、育成支援を行うプログラムです。RARA 学生フェローとして選抜された博士後期課程学生には、個々の研究力を向上させ、分野の異なる国内外の研究者との交流を通じて、国際性と学際性、さらに複眼的視野を兼ね備えた国際社会で活躍できる資質と能力を備えた博士人材へと成長していくことが期待されます。

なお、本プログラムは、JST (国立研究開発法人科学技術振興機構) 「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の採択を受け、2021 年度より実施・運営するものです。

支援の特徴

(1) RARA コロキウム

研究交流の場として、RARA フェロー等のトップ研究者による講演や多様な研究科に所属する RARA 学生フェロー同士の協働を促進し、複眼的な視座から自身の研究分野を相対的・客観的に捉える能力を高めています。

2024 年度は、新規採択した RARA 学生フェローを対象に気軽に話し合える環境を構築するためのコミュニケーション講義を、全ての RARA 学生フェローを対象にトランスファラブルスキルの獲得や博士号取得後の進路選択の検討などを目的とした連続講義を開催しました。また、VitaerDF の活用方法に関わるワークショップも開催しました。

(2) RARA コモンズ

研究報告の場として、本学園 (1 小学校、4 中学校、4 高等学校、16 学部・21 研究科) の児童・生徒・学生、そして 40 万人の校友 (卒業生) への研究のアウトリーチ活動を通じて、自身の研究の意義や楽しさを、世代を超えて多様な層に伝えていく能力を身に付けていくことを目的にセミナー・ポスターセッション等を実施しています。

2024 年度は、立命館の附属校・提携校をはじめとした 9 つの中学校・高等学校に対し、研究発表と交流

の場「ライスボールセミナー」を開催しました(延べ 17 日間)。これらにおいて延べ 26 名の RARA 学生フェローが登壇し、延べ 1,436 人の生徒が聴講しました。

(3) その他学外機関との連携

産総研デザインスクールなど国内外の研究機関等が主宰するプログラムへの参加機会の提供、国内外を問わず、企業等が実施するインターンシップへの参加支援など、様々な支援策を提供しています。

① 海外イマージョン・プログラム

自身の研究テーマに関連し、自身の能力を海外で試す機会や知見を広げるための企画等に対して経済面での支援をしています。2024 年度は 47 名の学生フェローの国際会議での発表、短期留学による国際共同研究やフィールドワークなどの研究活動を支援することができました。

② インターンシップ

RARA 学生フェローを対象とし、「株式会社かんぽ生命保険」を招き、博士後期課程のキャリアパス・インターンシップについて意見交換を行う「RARA インターンシップ座談会」を開催しました。その座談会を契機とし、同社とインターンシップに興味・関心の高い博士後期課程院生のマッチングが成立し、2025 年 1 月中旬～3 月中旬の 2 か月間、インターンシップが実現しました。

③ Creative Leadership 研修

国立研究開発法人産業技術総合研究所が運営するデザインスクールでも取り入れている研修で、デンマークのビジネススクールである Kaos Pilot の講師により進められる Creative Leadership 研修に、RARA 学生フェローを派遣しています。2024 年度は、リーダーとして大事にしたいことは何か、不確実な状況でも機能するリーダーシップのとり方を明らかにしたうえで、他者との信頼関係の築き方、創造的なコラボレーションなどを学ぶことができる本研修に、2 名の RARA 学生フェローが参加しました。

2024 年度採用者の学年別・所属研究科別一覧

所属	D1	D2	D3	D4	実績
法学研究科	-	-	-	-	
経済学研究科	1	-	-	-	1
経営学研究科	3	1	1	-	5
社会学研究科	1	2	-	-	3
文学研究科	1	3	2	-	6
理工学研究科	7	2	8	-	17
国際関係研究科	1	1	1	-	3
政策科学研究科	1	-	-	-	1
テクノロジー・マネジメント研究科	1	1	-	-	2
スポーツ健康科学研究科	6	5	3	-	14
情報理工学研究科	4	5	3	-	12
生命科学研究科	4	3	1	-	8
先端総合学術研究科	1	2	2	-	5
薬学研究科	4	3	1	2	10
人間科学研究科	4	4	6	-	14
食マネジメント研究科	1	1	-	-	2
合計	39	33	29	2	103

5. ティーチング・アシスタント(TA)制度

概要

ティーチング・アシスタント(以下、TA)制度とは、大学が大学院生を TA として採用し、授業において教育補助を行う制度です。これにより、本学の教育の質を高めることができるのみならず、TA となった大学院生にとっても、自身の教育力・指導力・コミュニケーション力などを高める有効な機会となります。大学院生は、TAとして活動することで、研究者・大学教員等の進路に限らず、広く社会人としての飛躍を志向するにあたり意義深い経験ができます。

TA 従事者数

【図表 5-1 2024 年度 TA 従事者数】

研究科	修士・博士前期	博士後期	博士課程※	合計
法学研究科	10	2	-	12
経済学研究科	32	8	-	40
経営学研究科	20	13	-	33
社会学研究科	25	11	-	36
国際関係研究科	18	13	-	31
文学研究科	75	28	-	103
政策科学研究科	18	1	-	19
理工学研究科	415	11	-	426
スポーツ健康科学研究科	29	6	-	35
映像研究科	2	-	-	2
人間科学研究科	34	15	-	49
食マネジメント研究科	13	3	-	16
情報理工学研究科	252	13	-	265
生命科学研究科	237	2	-	239
薬学研究科	54	1	3	58
先端総合学術研究科	-	-	20	20
言語教育情報研究科	16	-	-	16
テクノロジー・マネジメント研究科	3	3	-	6
法務研究科	1	-	-	1
経営管理研究科	6	-	-	6
教職研究科	0	-	-	0
合計	1,260	130	23	1,413

※博士課程:先端総合学術研究科…一貫制博士課程(5 年制)、薬学研究科 薬学専攻…4 年制博士課程

TA 研修制度

例年、TA 業務に必要な情報の説明や TA 業務を考えるワークショップなどを実施しています。

【図表 5-2 2024 年度実施 TA 研修】(参考)

ガイダンス・研修	内容
TA manaba+R・ IC カードリーダー研修	manaba+R および IC カードリーダーの機能概要を理解し、担当する授業において、教員と協働し、各ツールを用いた授業運営をより高めるための改善提案および検討を行なう。
TA ハラスメント 防止研修	ハラスメントの基礎的な知識から、それを防止するための方策を学ぶ。
TA スキルアップ研修	<ul style="list-style-type: none">・学生とのコミュニケーション方法、指導にあたっての注意事項など TA に共通して必要となる能力に関し気づきを与え、かつその向上のための取組みの動機付けとする。・TA 経験を振り返り、TA をする上での困ったことや悩み、その解決方法などを共有し、実例に応じた対処方法を学ぶ。

6. リサーチアシスタント(RA)、教学リサーチアシスタント(教学 RA)

リサーチアシスタント(RA)

(1)概要

本大学または他大学の大学院博士課程後期課程の正規課程に在学する者(前期課程と後期課程の区分を設けない博士課程の正規課程の3回生以上に在学する者を含む。)で、本学の各研究機構において研究プロジェクト、共同研究、受託研究等に従事する者に対して支援する制度です。

(2)雇用実績

【図表 6-1 2024 年度リサーチアシスタント雇用状況】

所属	日本人	留学生	総数
経済学研究科	1	6	7
社会学研究科	2	0	2
文学研究科	5	3	8
理工学研究科	7	4	11
国際関係研究科	4	7	11
政策科学研究科	0	3	3
テクノロジー・マネジメント研究科	0	1	1
スポーツ健康科学研究科	4	1	5
情報理工学研究科	6	12	18
生命科学研究科	1	0	1
先端総合学術研究科	1	0	1
薬学研究科	2	2	4
人間科学研究科	7	3	10
合計	40	42	82

教学リサーチアシスタント(教学 RA)

(1)概要

大学院高度化政策予算による施策の一環として、以下を目的に、2018年4月から運用を開始しました。

- ①研究プロジェクト、共同研究、受託研究等に従事することにより、博士課程後期課程院生の研究力の向上や、研究成果の創出につなげ、国内外の教育・研究機関、企業(研究職)等で活躍できる若手研究者の育成を目指す
- ②経済的に支援することによって、研究に専念できる環境をつくる
- ③RAの増加により、本学教員の幅広い基盤研究を充実させ、研究成果の創出促進を追求する

(2)対象

立命館大学研究職員規程第3条第4項に規定されているもののうち、下記の本学大学院の各研究科博士課程後期課程もしくは4年制博士課程在学者で、在学年数が標準就業年数を超えていない者。

- ・理工学研究科
- ・情報理工学研究科
- ・生命科学研究科
- ・薬学研究科
- ・スポーツ健康科学研究科

(3)雇用実績

【図表 6-2 2024 年度教学リサーチアシスタント雇用状況】

研究科	総計
理工学研究科	30
スポーツ健康科学研究科	0
情報理工学研究科	15
生命科学研究科	9
薬学研究科	8
合計	62

7. 博士と企業のマッチングセミナー

博士課程後期課程学生に対するキャリア支援として、プレ実施として 2019 年度以降開催してきた本企画は、その成果を踏まえ、2024 年度からは京都クオリアフォーラム合同企画として、株式会社アカリクに運営委託をし、対面開催しました。

概要

1) 目的

企業への就職をめざす博士後期課程大学院生を対象に、学生と企業の双方が交流する機会を提供し、就職への道筋をつけること。

2) 日時

2024 年 7 月 27 日(土) 12:00 ~ 17:00

3) 対象

博士課程後期課程の大学院生やポストドクター

※京都クオリアフォーラム加盟大学の大学院生も含む

4) 当日の構成

時間	内容
12:00 ~ 13:10	企業紹介プレゼンテーション
13:30 ~ 15:50	個別懇談 30 分 × 4 クール
15:50 ~ 16:10	休憩
16:10 ~ 17:10	個別懇談 30 分 × 2 クール
17:30 ~ 19:30	参加者懇親会
時間	内容

5) 参加学生・企業

〔学生〕奈良先端科学技術大学 22 名、同志社大学 8 名、奈良女子大学 4 名、京都工芸繊維大学 3 名、

京都産業大学 3 名、京都府立医科大学 1 名、立命館大学 0 名、その他 26 名

〔企業〕株式会社 PKSHA Technology、株式会社知能情報システム、株式会社 SCREEN ホールディングス、株式会社新日本科学 PPD、株式会社デンソー、テクノブリッジ NKE 株式会社、日本電信電話株式会社、日本テクノ・ラボ株式会社、株式会社とめ研究所、エンゼルグループ株式会社、株式会社神戸製鋼所、アボットグループ、国立研究開発法人産業技術総合研究所、ヌヴォトンテクノロジージャパン株式会社

マッチングセミナーを終えて

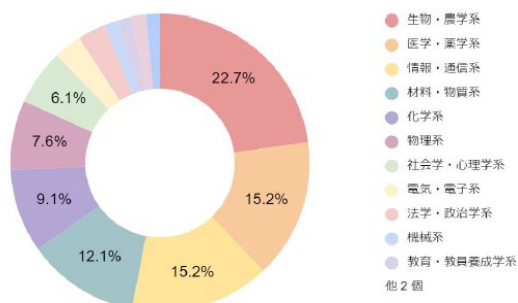
京都クオリアフォーラムの一企画としては初の開催といった理由から、参加企業が直前まで流動的となり、広報展開も後手に回ってしまいました。その結果として、参加者数は振るわないものとなりました。今後に向けては参加企業募集の前倒しや運営方法の見直しを含めて検討します。

実施後アンケート(委託先:アカリク作成)資料抜粋

【学生】

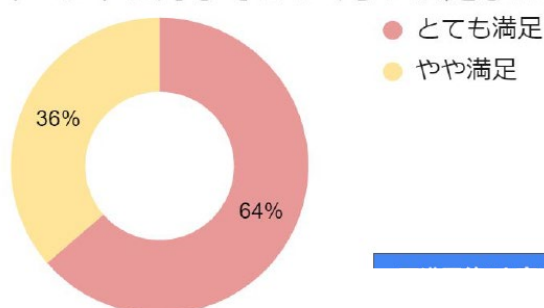
参加者属性：主専門分野

参加者の主専門分野



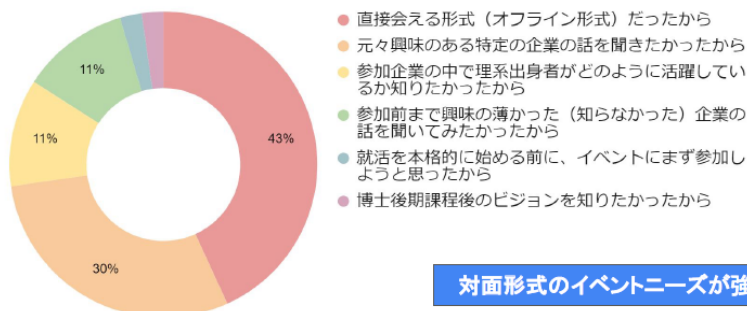
満足度

本イベントに対してどのくらい満足し...



イベント参加理由

本イベントの参加理由は何でしたか？



対面形式のイベントニーズが強い

【企業】

満足を受けた感想(抜粋)

・他イベントに比べ集客も多く、ブースにも多く訪問いただいたため満足

・多くの学生に出会えてよかったと思います。
主催大学の皆さまと企業とがあいさつ出来るセッションがあるとさらに良かったと思います。

・博士の方々と会えただけでなく、大学側が抱えている課題なども直接伺うことができて有意義な時間でした。

・30分6タームと比較的しっかりと時間もおり、かつ懇親会もあるため、学生としっかりとコミュニケーションをとることができた

不満を受けた感想

・参加学生・当社ブースへの来場学生数があまり多くなかった点

・イベント運営の段取りについて、企業PRの時間が前倒しで終わったからと言って第1タームの時間を倍にするという対応はどうかと思った（時間数的にも1ターム増やしたりできたのではと思う）

・参加企業への案内をもう少し詳細にお願いしたいです。

・懇親会についてどういう形式の懇親会なのか事前にご提示いただきたかったです。

8. 京都クオリアフォーラム

京都クオリアフォーラムは、京都に根ざす大学と企業が互いの垣根を越えた交流を通して“「知」の共鳴場”を実現すること、そこから新たなイノベーションを創出し、社会実装を通して日本の科学技術、産業界に貢献して、世界をリードする人材を輩出する事を目的として、2021年5月に設立されました。京都・奈良の企業8社と本学を含む7大学が参画しています。

このフォーラムでは、企業と大学による共同研究や企業技術者と大学研究者が活発に交流する場を作り、広い見識と実現力を持ち、将来の日本をリードする人材を育成する活動を推進しています。

京都クオリアフォーラムウェブサイト <https://kyoto-qualia-forum.jp/>



京都クオリアフォーラムとは

京都クオリアフォーラムは、京都に根ざす大学と企業が互いの垣根を越えた交流を通して“「知」の共鳴場”を実現すること、そこから新たなイノベーションを創出し、社会実装を通して日本の科学技術、産業界に貢献して、世界をリードする人材を輩出する事を目的として設立されました。

2024年度も過年度に引き続き、加盟大学・企業にて、博士に対する期待や現状を本音で語り合い、博士後期課程学生を京都で盛り上げるための会議、「博士キャリアメッセKYOTO」を開催しました。

7月17日に京都産業大学を主会場(ハイブリッド開催)として開催した「第1部 博士学生への期待とキャリアを考える」では、社会で活躍する研究者・技術者のプレゼンテーションを中心に、博士への期待と現状について議論しました。

また、11月1日に開催した「第2部 博士学生を知る」(同志社大学でハイブリッド開催)では、全体で52名(本学からは5名が参加)の博士課程学生が自身の研究発表と質疑応答を行いました。発表者に対しては、参画している企業からの企業賞とともに、聴衆全員の投票によるベストインパクト賞が選出されました。終了後には、発表学生同士の交流会があり、懇談を通じて、研究交流や自身のキャリアを考える機会となりました。

9. リサーチプロポーザルコンテスト

大学院キャリアパス推進室では、2013 年度より大学院生の研究構想力の向上、自身の研究内容や専門知識を広く社会に伝える力を養う、および汎用的な文章力の向上を目的として「立命館大学大学院リサーチプロポーザルコンテスト」を開催しています。2019 年度からは、院生の研究発表の場に繋がるように工夫し、受賞者にはライスボールセミナーにおいて研究発表する場を設けて開催しました。

コンテスト概要

(1) 募集概要

- ①応募資格 応募締切日現在、本学大学院に在学する大学院生
- ②募集分野 人文学、社会科学、数物系科学、化学、工学系科学、情報学、生物系科学、農学・環境学、医歯薬学

(2) 応募について

①応募に関して

- ・ 応募は1人1件とする
- ・ 応募者本人が作成したものに限る

②作成要領

- ・ 応募書類は、本コンテスト所定の様式を使用すること。様式の変更、所定様式以外の用紙の追加は認めない。
- ・ 応募書類は、パソコンで作成することとし、本文のフォントサイズは10.5ポイントとする。
- ・ 使用言語は日本語または英語とする。
- ・ 図表等を用いて、必ずしも専門や前提知識を共有しない読者を想定して記述すること。略語は使用しない。
- ・ コンテスト応募後、加筆修正して次年度の学振特別研究員や学外機関の研究助成に積極的に応募することを推奨する。
- ・ これまでの研究経過および研究成果に関して、研究倫理にもとる重大な虚偽が発見された場合は、「立命館大学学生懲戒規程」にもとづき厳しく対処する。

(3) 審査について

①審査体制

大学院キャリアパス推進室委員で審査委員会を構成し、審査を行う。なお、応募者全員に審査講評を送付する。

②審査基準

以下(1)～(7)の審査項目について、審査基準 ①論旨・形式の一貫性 ②分かりやすさ③知的な示唆

④研究計画・提案の魅力 ⑤研究遂行能力の観点から審査を行う。

(1)研究の概要図

概要図が、プロポーザルの要点を押さえ、分かりやすく、かつ魅力的に作成されているかについて評価する。

(2)研究の背景

研究の背景について、これまでの研究状況を踏まえ、参考文献を挙げながら説明できているか、論旨形式に一貫性があるかについて評価する。

(3)研究の目的・内容

研究の目的が具体的かつ明確に示されているか、研究目的を達成するための方法、計画が練られたものになっているか、論旨・形式に一貫性があるか、知的な示唆に富んでいるかについて評価する。

(4)研究の特色・独創的な点

研究課題を設定する視点に特色や独創性が認められるか、研究が完成したときに予想されるインパクトおよび将来の見通しがあるか、論旨・形式に一貫性があるか、知的な示唆に富んでいるかについて評価する

(5) 研究計画

課程、回生を踏まえつつ、現在から課程を修了するまでの研究計画について評価する。

(6) 研究遂行能力

課程、回生を踏まえつつ、研究課題の実行可能性を説明する上の根拠について評価する。

(7) 研究者を志望する動機、目指す研究者像、アピールポイント等

研究者を志望する動機、目指す研究者像、アピールポイント等を評価する。

④ 賞について

大賞 2名(賞状、副賞 Amazon ギフト券 5万円分)

優秀賞 4名(賞状、副賞 Amazon ギフト券 3万円分)

敢闘賞 6名(賞状、副賞 Amazon ギフト券 5千円分)

審査結果

審査委員による書面審査を行い、受賞者を決定しました。

【大賞】

研究科	回生	研究課題
理工学研究科	D1	日本における将来の持続可能な介護サービスの実現に向けた研究
先端総合学術研究科	D2 (M2 相当)	知的障害者の余暇実践に関する社会学的考察——支援の「素人」の学生との関係性に着目して

【優秀賞】

研究科	回生	研究課題
社会学研究科	D2	「空襲」を記録する運動の歴史社会学
文学研究科	D1	デュルケムからモースへ:「混ざりあいの道徳」の系譜が提示するもの
情報理工学研究科	D3	日常対話で指示語を含む曖昧な指示を理解するサービスロボット
先端総合学術研究科	D3 (D1 相当)	ジャック・ラカンにおける喜劇:ポスト精神病時代の人間の心的構造を見つめる観点から

【敢闘賞】

研究科	回生	研究課題
経済学研究科	M2	日本のインバウンド観光市場における時空間的特性と発展対策に関する研究
国際関係研究科	M2	Vietnam - Japan defense and security partnership within the dynamics in the Indo-Pacific region

政策科学研究科	M2	外国にルーツを持つ子どもの日本語教育(オンライン教育を使用した全国一斉日本語教育)
人間科学研究科	D2	高度外国人材への日本語学習支援策の検討:日本のバングラデシュ IT 人材を事例として
生命科学研究科	M2	キラルネマチック液晶の反射色を利用したコンポジット中の高分子微粒子の変形挙動解析
先端総合学術研究科	D2	ミシェル・フーコーにおける法と演劇の史学—主権による行政の統治不可能性をめぐって—

表彰式

本コンテストの受賞者を称え下記日程で表彰式を開催しました。また、表彰式と合わせて、対象受賞者による研究発表を行いました。

表を行いました。その他受賞者をはじめ、多くの参加者があり、院生の最先端の研究に興味深く聞かれており、活発な質疑応答がなされました。

(1)開催日時 2024 年 11 月 21 日(木)12:20～12:50

(2)実施形態 OIC R-AGORA にて対面開催

(3)式次第 ①開式の辞、③受賞者発表・審査講評、④表彰、⑤大賞・優秀賞受賞者プレゼンテーション、⑥閉式の辞

10. 100 人論文 at 立命館大学

概要

大学院生のための研究発表会として、また、大学院ウィークの一行事として位置付けて、今年度初めて「100 人論文 at 立命館大学」を開催しました。その目的は以下の 2 点です。

- (1) 大学院生が行っている研究を見聞きすることにより、研究のおもしろさや楽しさに触れる機会になるとともに、「研究」や「研究者」への興味・関心を高め、大学院(後期課程を含む)進学の動機付けにする。
- (2) 大学院生(後期課程を含む)にとって、①研究発表の機会、②発表スキルの向上、③異分野交流のきっかけ、
④匿名による「本音」の意見交換により、多角的に研究を深めるきっかけにする。

実施状況

2024 年度は本学創立 125 周年記念企画「大学院生によるポスターセッション」として、主に学振特別研究員や RARA 学生フェロー、また、過年度「研究会活動支援制度」により支援を受けている大学院生の自主的な研究会による活動報告・交流企画として実施しました。

1) 日 程 2024 年 11 月 10 日(日) 10:00~16:00

2) 場 所 立命館大学 大阪いばらきキャンパス B 棟 5 階 クロノトポス

3) 発表者 31 名、18 研究会

4) 来場者 30 名

5) 内 容

・自分の研究テーマについて以下 6 項目を記載し、来場者からコメント(付箋メモ)をもらう。

a. 「この研究をはじめたきっかけ」(168 字)

b. 「この研究の内容」(168 字)

c. 「期待される成果・ソーシャルインパクト」(224 字)

d. 「研究手法／スタイル」(168 字)

e. 「研究でこんなことで悩んでいます。アドバイスください」(300 字)

f. 「わたしはこんなことが得意です。お役に立てます」(465 字)

・来場者は、質問や意見などを付箋に書いてポスター下部の専用スペースに貼る。

・コンタクトを希望する場合は、初回は、事務局が間に入って、双方をつなぐ。

POSTER SESSION FOR



創立125周年記念企画
大学院生による
ポスターセッション

このポスターセッションは、立命館大学が2030年に実現を目指す「次世代研究大学」の担い手である
大学院生が若手研究者として日々取り組んでいる研究活動を紹介するものです。

さらには大学院生と来場者の皆さんとのコミュニケーションの場としてもポスターを活用します。
ぜひ、ポスター発表者に研究の面白さについて聞いてみたい、
「コミュニケーションエリア」にコメント残したりしてみてください！

◆ 日 時: 2024年11月10日(日) 10:00～16:00
◆ 場 所: 大阪いばらきキャンパス B棟5階 クロノトポス

ご来場の皆さんへ

ポスターセッション参加方法

STEP1 ふせん、シールを受け取る
STEP2 各ポスターの「コミュニケーションエリア」にコメントやシールを残す
STEP3 ポスター発表者が皆さんのご意見を今後の研究活動に活かしていきます！

SOCIAL IMPACT



11. ライスボールセミナー

ライスボールセミナーは、「若手研究者の力量形成」「異分野研究者間の交流」「研究活動および大学院に対する学部生の興味・関心向上」を目的として、お昼休みの時間帯に実施しています。聴講は無料で、参加者はおにぎり(ライスボール)を食べながら、気軽に研究発表を聴くことができます。

登壇する若手研究者は、自身の研究内容や研究生生活、また大学院進学のきっかけ等も発表し、発表後は聴講者との活発な議論を行っています。

2024 年度は他キャンパスからのライスボールセミナーへの聴講のしやすさなども考慮され、引き続き全キャンパスでオンライン開催となりました。

また、後半期には、「大学院ウィーク」との連携企画として、大学院生を発表者とし、大学院への興味・関心を高める取組みを実施しました。

大学院生が発表者の回

【図表 14-2 びわこ・くさつキャンパス(全 5 回中 3 回)】

開催日	研究科	課程	氏名	タイトル
11/5	薬学研究科	博士後期	黄瀬 美 妃	がんや免疫に関わる STAT3 のスプライシングスイッチ調節機構の解明
11/18	理工学研究科	博士後期	吉良 成美	見えない環境負荷を見える化する
11/22	生命科学研究科	博士後期	高橋 一輝	シミュレーションで材料破壊をミクロから理解する

12. 支援制度の認知度向上を目的とした大学院キャリアパス推進室 HP のリニューアル

(1) リニューアルの背景と目的

大学院キャリアパス推進室のホームページは 2010 年の開設以降、多くの情報を提供してまいりました。

ただし、今後時代のニーズに合わせてさらに利便性を高め、博士後期課程の魅力や多様なキャリアパスに関する情報を一層充実させ、大学院生が自身の将来をより具体的かつ前向きに描けるようにするため、ユーザーが必要な情報へスムーズに辿りつける設計を目指し、今回のリニューアルでは、UI の刷新とコンテンツの整理、キャリア形成を意識できる特集コンテンツの制作、支援制度の認知度向上を目指しました。

(2) 主な改善点・コンテンツについて

今回のリニューアルでは、スマートフォン対応を前提とした UI の刷新と、情報構造の再設計を行いました。

コンテンツは、「経済支援」「スキル開発支援」「キャリアパス支援」の 3 カテゴリーに整理し、目的に応じた情報へのアクセス性を高めました。その他 RARA 学生フェローや学振特別研究員に関する特設ページを開設しました。

さらに、大学院生等のインタビューなど、「ヒト」に焦点を当てた特集コンテンツを新設し、支援制度の魅力や活用事例を伝える工夫を加えました。

<リニューアル後の大学院キャリアパス推進室 HP>



13. AI 自動翻訳システムによる支援

概要

大学院生が行う研究活動の高度化・グローバル化をさらに力強く促進するために、大学院の正規課程に在籍する全大学院生を対象に、高精度な外国語機械翻訳システムを 2022 年度秋学期の試験運用期間を経て、2023 年度より本格導入しています。

導入システムについて

(1) サービス名

AI 自動翻訳 MiraiTranslator®

(2) 運営企業

株式会社みらい翻訳

(3) 利用できる機能

テキスト翻訳・ファイル翻訳、辞書・翻訳メモリ、その他管理機能

(4) 対応言語

日本語⇄英語、中国語(簡体/繁体)、韓国語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、ドイツ語、
スペイン語、フランス語、ポルトガル語、ロシア語、イタリア語
英語⇄中国語(簡体/繁体)、韓国語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、ドイツ語、スペイン語、
フランス語、ポルトガル語、ロシア語、イタリア語

(5) 上位の翻訳パターン実績

- 1 位 英語→日本語
- 2 位 日本語→英語
- 3 位 英語→中国語(簡体字)

14. アカデミックライティング連続講座

概要

大学院生が英語論文の執筆を開始するにあたっての準備として、執筆に取り掛かるための計画やアカデミックライティングの基礎となる Sentence や Paragraph 構成、文法、句読法、文書スタイルに関して適切な知識の習得を目的として全5回の連続講座を開講しました。

全講座受講で体系的にアカデミックライティングの基礎を習得できる構成となっています。

支援内容

(1) 支援方法

- オンライン(zoom)での講義形式。1講座完結型の連続講座、計 5 講座を開講(1講座90分)
- 実施言語:英語
- 各レクチャーを録画し、後日 manaba+R にて学内者向けに公開

(2) 支援業者

大学英語教育プログラム展開実績がある株式会社 SEICO に業務委託し運営を行っています。

利用実績

＜研究科別受講者状況(人数)＞※全5講座分の合計

■申込者合計(重複除外):49 名 ■出席者合計(重複除外):36 名

研究科	M1	M2	D1	D2	D3	D4	D5	D7	教員	合計
経済学研究科	1									1
経営学研究科			1	1			1			3
国際関係研究科	1	1	1							3
政策科学研究科		2	1							3
理工学研究科	2	2	2		2					8
先端総合学術研究科						1		1		2
言語教育情報研究科	2									2
スポーツ健康科学研究科				1						1
生命科学研究科	2	3	2	1	1					9
薬学研究科			1							1
人間科学研究科						1				1

教職研究科									2	2
合計	8	8	8	3	3	2	1	1	2	36

15. オンライン英語論文個別指導

概要

大学院生が英語の論文作成をする上で、英語文法や語彙における弱点を克服し、以後の論文執筆を円滑に行えるようになることを目的とし、オンラインにて英語講師による添削指導を実施しました。

支援内容

(1) 支援方法

ZOOM を活用したオンラインでの個別指導により、論文やアブスト、プレゼン資料等について、文法や語彙の弱点を指摘また適した表現の選択など、より質の高い論文完成に向けて指導を行いました。

(2) 募集広報

大学院キャリアパス支援室のウェブサイト・manaba+R・メルマガによる募集広報を行い、プログラム終了日までの決められた期間において、WEB 受付を行いました。

(3) 日程

1 コマの設定時間を 45 分とし、1 コマ目と 2 コマ目の間には準備時間として 10 分間設けました。

時間帯	パターン	
夕方	①	17:00～17:45
	②	17:55～18:40
夜間	③	20:00～20:45
	④	20:55～21:40
午前	⑤	10:00～10:45
	⑥	10:55～11:40

なお、年間で 60 コマ(春学期 30 コマ、秋学期 30 コマ)分を設定しました。

(4) 支援業者

大学英語教育プログラムの展開実績がある株式会社 SEICO に支援いただいています。

利用実績

(1)2024 年度春学期

<研究科別受講者状況(人数)> 赤字下線は日本人学生の数

研究科	M1	M2	D1	D2	D3	合計
理工学研究科		2				2
経済学研究科			1			1
国際関係研究科	2	2				4
政策科学研究科	1	3	2	1		7
テクノロジー・マネジメント研究科				1		1
生命科学研究科		1				1
情報理工学研究科	1	1			1	3
言語教育情報研究科	1					1
合計	5	9	3	2	1	20

※上記受講者 20 名中、日本人学生 計 7 名

(2)2024 年度秋学期

<研究科別受講者状況(人数)>

研究科	M1	M2	D1	D2	D3	D4	D5	合計
経済学研究科		2						2
経営学研究科							1	1
社会学研究科						1		1
国際関係研究科			1					1
政策科学研究科		2	1		1			4
文学研究科					1			1
理工学研究科		1	1	2	1			5
言語教育情報研究科	1							1
テクノロジー・マネジメント研究科*			1	1				2
生命科学研究科		3						3
人間科学研究科						1		1
合計	1	8	4	3	3	2	1	22

※上記受講者 22 名中、複数回利用者 計 4 名

16. 男女共同参画推進リサーチライフサポート室における取組み

立命館大学は、2016年度に選定された文部科学省・科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 特色型」を後押しに、女性研究者支援に関する様々な施策を図って参りました。その取組みと成果検証を通して、自然科学系無期雇用教員の女性比率が向上されない課題を共有しました。2020年度には文部科学省・科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 先端型」に選定され、女性研究者の裾野拡大、採用、育成、上位職登用までの一連のキャリア支援を視野に入れた、女性研究者のキャリアパスを「つなぐ」プログラムを構築することで、女性研究者のキャリアアップを重点的に図っております。

本事業の取組みのひとつである「女性研究者の裾野拡大」では、女子中高生や学部生が将来のキャリアを明確に描くことができるよう、ロールモデルとなる女子大学院生や女性研究者が身近にいる環境を作り出し、研究者の魅力を情報発信するための取組みを進めています。

2024年度は、下記のとおり取組みを実施しました。

(1) 研究者ロールモデル集「研究日和」の発行およびウェブサイト掲載

「研究日和」は、多彩なバックグラウンドを持つ研究者のライフストーリーを通して、研究の面白さを伝えるとともに、研究者の裾野拡大と学生への研究意欲の向上を目的としています。2024年度は、3名の研究者のインタビューやそれぞれのライフライン・チャートをwebにて公開しました。



総合心理学部 准教授
鈴木華子



総合科学技術研究機構 研究准教授
El Hafi Lotfi



国際関係学部 准教授

越智 萌

当室ウェブサイト

<http://www.ritsumeai.ac.jp/research/rsupport/interview/>



(2)「世界のキャンパスから」の冊子発行およびウェブサイト掲載および冊子発行

学外研究制度や女性研究者海外渡航支援制度を利用した研究者の協力を得て、研究情報および諸外国におけるワークライフバランスや研究環境整備に関する情報を収集し、その内容を紹介しています。これから海外で共同研究や学外研究を予定している研究者が、渡航先で円滑な研究活動ができること、また、研究者を目指す高校生、学部生、大学院生が国際共同研究を具体的にイメージできることを目的としています。2024年度は、ウェブサイトにも2名を追加公開し、冊子「世界のキャンパスから vol.2」では、計4名の研究者のインタビューを掲載しました。

当室ウェブサイト

<https://www.ritsumeai.ac.jp/research/rsupport/worldcampus/>



17. 研究倫理セミナー

プログラムの概要

大学院生が学問的良心に基づき自由に研究活動を行うためには、研究を進めるにあたって知っておかなければならない行動規範、成果の発表方法などの研究倫理を心得ておく必要があります。大学院生が意図しない部分で倫理的な問題を起こさないためにも、研究倫理の基礎知識、研究倫理を学ぶ必要性・意義などを学び、研究倫理は大学院生が主体的に考えるべき問題であるということを認識することは非常に重要なことです。

これまで本学では、指導教員による研究倫理指導だけではなく、正課科目、課外セミナーによる研究倫理教育の実施や、新入生オリエンテーション等においても研究不正（剽窃、盗作など）に関わる注意喚起等も行ってきました。この間の取組みも踏まえつつ、本学では2016年度より全大学院生を対象とした新たな研究倫理教育を実施しています。

(1) 研究倫理プレセミナー

研究倫理プレセミナーは、大学院新入生オリエンテーションにおいて研究不正（剽窃、盗作など）に関わる注意喚起等を行っています。新型コロナウイルス感染症拡大以降、従来の内容を撮影した動画を配信し、manaba等にて通知しました。

セミナーでは、研究とは何か、研究の魅力を知るとともに、研究活動を進めるためには研究倫理を学ぶ必要があること、研究倫理は大学院生が主体的に考えるべきことを認識させるために、日本学術振興会編集の冊子『科学の健全な発展のために』（以下、「グリーンブック」）を配布し、内容を紹介しました。

※【グリーンブック】本書は、日本学術振興会が編集委員会を設け、日本学術会議の協力、科学技術振興機構や各大学に所属する有識者の協力、文部科学省のアドバイスなども踏まえ編集されたものです。また、本書は人文・社会科学から自然科学までのすべての分野の研究に関わる者が、どのようにして科学研究を進め、科学者コミュニティや社会に対して成果を発信していくのか、エッセンスになるとされる事項を整理しまとめたものです。

(2) グリーンブックの熟読

グリーンブックは基本的な研究倫理に関することが網羅的に記載されており、大学院生が最初に研究倫理を学ぶ教材としては非常に適しています。「研究倫理プレセミナー」開催時に新入生全員にグリーンブックを配布し、欠席者分は研究科事務室より配布しました。オリエンテーションのオンライン化が進み、2022年度からデータ配布に変更します。

要点が一冊の本にまとめられていて分かりやすい、研究を進めるうえで活用できるとの意見が多数ありました。一部の参加者からは既に知っている研究倫理に関する内容であるとの意見もありましたが、改めて復

習する機会となったとの意見もありました。

(3) 研究倫理 e ラーニング

グリーンブックでは掲載しきれなかった具体的な事例と解説が整理してまとめられており、研究倫理共通セミナーを受講前に、e ラーニングを修了することを義務付けています。

本 e ラーニングは、日本学術振興会が、研究機関の実施する研究倫理教育のひとつとして導入することを想定して、2016 年 4 月 15 日よりサービス提供を開始しました。人文学・社会科学から自然科学までのすべての分野の研究に関わる者が、どのようにして科学研究を進め、科学者コミュニティや社会に対して成果を発信していくのかといったことについて、エッセンスになると思われる事柄を整理しまとめたものです。研究を進めるにあたって知っておかなければならないことや、倫理綱領や行動規範、成果の発表方法、研究費の適切な使用など、科学者としての心得が示されています。

(4) 研究倫理共通セミナー

2020 年度より VOD 学習として日本語版と英語版の動画を配信しています。過年度の受講者アンケート（自由記述）では、「同じチームで研究した内容であっても、講義資料を示す際には、引用をしっかりと明記することが印象に残りました。非常にイメージしやすく、身近に起こり得る事例だと感じました。自己のプレゼン発表でも、常に注意したい点だと改めて感じました。」「研究倫理違反ということが、悪意がなくとも不注意で起こりやすい場面がたくさんある、といくことに気づけた。」などの意見が寄せられました。本セミナーは、研究倫理というものが自身の身近にある問題として改めて認識する機会となり、行動の仕方や問題意識の持ち方など倫理姿勢を学ぶとても意義深いものになったと考えられます。

18. 立命館大学若手研究者学術・キャリア情報検索システム(Ri-SEARCH)

制度の概要

(1) 本システム導入の背景・目的

本システムは、2011 年度に本学の博士課程後期課程に在籍する大学院生の研究活動・研究業績の記録と希望者の研究業績の公開を目的として導入し、2021 年度には対象者を全大学院生に拡大し運用しています。

◆目的

- ① 全大学院学生個人のキャリアパス形成の推進に資する
- ② 通常得られにくい大学院生の研究業績情報を一般公開する
- ③ 大学として大学院生支援のための政策立案の基礎となるデータ収集を進める

(2) 基本仕様

◆構成

本システムは、利用対象となる大学院生(正規生)が、自身の研究業績や希望するキャリアについて登録する WEB と、登録のうえ、公開設定された情報をインターネットユーザーが閲覧できる WEB の 2 点により成り立っています。

研究者情報の登録 WEB: <<https://gyoseki-web.ritsumei.ac.jp/ritgsap/P300>>

研究者情報の閲覧 WEB: <<https://gyoseki.ritsumei.ac.jp/ritgshp/KgApp/>>

◆利用権限

全大学院生(正規生)、教員(一部非常勤含む)

◆機能の特徴

大学院生の研究業績情報を蓄積し、公開する以外に次の機能を有しています。

- ① 各研究科および大学院キャリアパス推進室で把握しておくべき研究業績データを Excel などの集計ソフトに対応した形式でエクスポートする機能。
- ② 国立研究開発法人科学技術振興機構が運営する研究者情報データベース「researchmap」への研究業績データ連携機能。
- ③ 英語基準の大学院生や海外からの一般アクセスへの対応に配慮した項目の日英両言語併記。
- ④ 「学生学会奨学金」の電子申請機能。その他奨学金申請書類の自動作成機能。

■参考：2024 年度の研究業績データ(課程、研究科別一覧)

【図表 17-1. 2024 年度の研究業績データ(課程、研究科別一覧)】

※1:専門職学位課程は除く

※2:「Ri-SEARCH 在籍者数」は基準日(2024 年 5 月 1 日)時点で Ri-SEARCH システムに登録されている大学院生数。

後期課程	文・理	Ri-SEARCH 在籍者数	論文数		著書		国内学会発表		国際学会発表		シンポジウム発表		学術雑誌解説・総説	
			登録件数	登録者数	登録件数	登録者数	登録件数	登録者数	登録件数	登録者数	登録件数	登録者数	登録件数	登録者数
法学研究科	文	5	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
経済学研究科	文	27	2	2	0	0	6	6	27	16	2	1	7	4
経営学研究科	文	29	12	8	1	1	16	10	12	8	7	5	9	5
社会学研究科	文	44	8	5	1	1	34	16	8	6	4	2	9	9
国際関係研究科	文	57	7	7	1	1	4	4	27	16	14	10	10	6
政策科学研究科	文	32	3	3	0	0	13	9	1	1	2	2	4	2
文学研究科	文	81	35	24	3	1	39	27	29	24	44	25	20	16
人間科学研究科	文	110	21	8	5	2	94	48	33	24	20	13	28	17
食マネジメント研究科	文	13	0	0	0	0	9	5	3	3	2	2	1	1
先端総合学術研究科	文	195	57	41	8	6	60	40	24	19	32	23	30	24
テクノロジー・マネジメント研究科	文	29	1	1	0	0	12	9	13	12	0	0	14	8
スポーツ健康科学研究科	文	54	4	4	0	0	58	22	32	22	4	3	15	8
理工学研究科	理	104	1	1	0	0	64	37	100	55	45	22	54	30
情報理工学研究科	理	74	10	5	0	0	24	18	60	37	20	15	15	12
生命科学研究科	理	44	0	0	1	1	67	26	25	16	27	15	9	7
薬学研究科	理	25	1	1	0	0	24	13	14	9	19	11	24	15
総数		923	164	112	20	13	524	290	408	268	243	150	250	165

前期課程	文・理	Ri-SEARCH 在籍者数	論文数		著書		国内学会発表		国際学会発表		シンポジウム発表		学術雑誌解説・総説	
			登録件数	登録者数	登録件数	登録者数	登録件数	登録者数	登録件数	登録者数	登録件数	登録者数	登録件数	登録者数
法学研究科	文	50	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0
経済学研究科	文	86	0	0	0	0	4	4	6	6	7	6	1	1
経営学研究科	文	69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会学研究科	文	76	0	0	0	0	6	3	3	2	0	0	0	0
国際関係研究科	文	151	1	1	0	0	6	5	10	8	6	4	1	1
政策科学研究科	文	80	0	0	0	0	2	2	1	1	2	2	1	1
文学研究科	文	137	5	4	0	0	19	18	27	26	25	19	2	2
人間科学研究科	文	117	1	1	0	0	22	21	1	1	3	3	0	0
食マネジメント研究科	文	37	0	0	0	0	3	3	2	2	0	0	0	0
先端総合学術研究科	文	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
言語教育情報研究科	文	87	0	0	0	0	7	6	3	3	4	3	0	0
テクノロジー・マネジメント研究科	文	152	0	0	0	0	5	5	1	1	0	0	0	0
スポーツ健康科学研究科	文	63	0	0	0	0	36	27	23	18	2	2	2	2
映像研究科	文	19	0	0	0	0	5	5	6	4	5	5	0	0
理工学研究科	理	922	4	4	0	0	286	241	149	135	131	112	16	13
情報理工学研究科	理	402	6	3	0	0	94	84	89	85	99	79	0	0
生命科学研究科	理	309	11	6	1	1	301	117	92	57	90	65	27	17
薬学研究科	理	63	0	0	0	0	20	20	8	7	23	20	3	3
総数		3,196	28	19	1	1	818	562	421	356	397	320	53	40

19. 学部生に向けた取組み

「大学院ウィーク」での企画展開

学部生の大学院進学に関する早期の意識の醸成を図るための企画として教学部が主管となり「大学院ウィーク」を秋に実施しています。

ここでは各部・課にて関連企画が展開され、2024 年度は以下の企画展開となりました。

◆期間

2024 年 11 月 4 日(月)～11 月 17 日(日)

※企画によって、若干の期間外の場合もあり。

◆主な企画

- ・ 各研究科や研究拠点による公開授業、公開セミナー、オフィスアワー
- ・ 現役院生・OB・OG との交流会、座談会、個別相談会
- ・ 大学院進学説明会(各研究科による説明会)
- ・ 若手研究者による研究発表(ライスボールセミナー)
- ・ 図書館での教員お薦め本展示、大学院修了生刊行図書の展示
- ・ 100 人論文 at 立命館大学 2024
(創始 155 周年、創立 125 周年記念企画／大学院生によるポスターセッション)
- ・ リサーチプロポーザルコンテスト受賞者研究発表会

◆参加者数

全体で 89 の企画が実施され、集計可能な企画だけで約 2,200 名の参加がありました。

20. 日本学術振興会「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」による支援

制度の概要

(1) 経緯

本学は、2023 年 7 月 24 日付で日本学術振興会(以下、「JSPS」)より「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」の導入機関として登録されることとなりました。

これにより、本学を受入研究機関とする JSPS 特別研究員(PD,RPD,CPD)の方は、基本的に、本学にて直接雇用されることとなりました。

JSPS「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」WEB サイト

<<https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd-koyou/>>

(2) 本学が雇用する日本学術振興会特別研究員 PD 等の育成方針

本学では、研究力向上のための研究高度化中期計画において、若手研究者をはじめとする研究者のキャリアステージに応じた支援と基盤的な研究支援により、「一人ひとりの研究力量を高める大学」を目標とする大学像の一つに掲げています。特に若手研究者の研究力向上と多様なキャリア形成に向けた取組みに力を入れています。

本学では、大学独自の支援として以下 4 つの取組みを実施いたします。

① グローバルに競争力のある研究者の育成

グローバルに活躍できる研究者の育成に向けて、海外研鑽の機会や海外機関との共同研究の機会を提供します。また、国際学会等での海外渡航費の支援を行う「研究者海外渡航支援制度」や海外大学との国際共同研究を支援する「国際共同研究推進プログラム」の提供を予定しています。

② 自ら研究費を獲得し、研究を推進できる研究者の育成

研究費の獲得に向けた「科研費獲得支援セミナー」や「科研費研究計画書ブラッシュアップ制度」の実施、論文投稿を支援する「外国語論文投稿時の投稿・校閲費支援制度」や「ハイ・インパクトジャーナル投稿支援制度」などを提供する予定です。

③ 理論と実践力を兼ね備えた研究者の育成

大学教員として身に付けておくべき基本的な教育力量を養い、若手研究者のキャリアパス構築に役立ててもらうため、立命館大学教育開発推進機構が実施する新任教員向け FD プログラムを活用した研修の機会を提供します。

④ 女性研究者に係る育成方針

ダイバーシティ&インクルージョン推進の観点から、女性研究者を対象とした支援も行います。女性研究者のキャリアパス構築や研究開始時の立ち上げ期の支援、ライフイベントにかかわる研究支援など女性研究者が安心して活躍できる支援を進めます。

以上、本学は、これからも、若手研究者がいきいきと挑戦できる環境を整え、「次世代研究大学」の実現に向けたさらなる取組みを進めてまいります。

